

I.2022年度事業報告

1.会勢報告

{総務担当:中川 千鶴、横井 元治}

【総数】

(単位:人)

会 員	2022年4月1日	2023年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,269	1,235	69	103

会員資格変更

正会員:	1,199	1,170	47	83	-36	7
準会員:	70	65	22	20	+2	-7

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2022年4月1日	2023年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	27	27	2	2	0 (0)
東 北	44	41	0	3	-3 (0)
関 東	698	687	49	60	-11 (0)
東 海	120	113	6	14	-8(+2)
関 西	224	214	5	14	-9(-1)
中国・四国	90	90	4	4	0(0)
九州・沖縄	61	59	3	5	-2(-1)
国 外	5	4	0	1	-1(0)
賛 助 会 員	21社 22口	21社 22口	0社 0社	0社 0口	0社 0口

2. 事業報告

2022年度は、一般社団法人日本人間工学会第8期(2022年6月~2024年6月予定)の1年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。新型コロナウイルスの収束が見える中で3年ぶりの対面での全国大会を実施し、将来構想・普及委員会やPSE委員会の設置など社会への情報発信を推進した。

- (1)2022年定時社員総会を2022年6月18日に芝浦工業大学芝浦キャンパスおよびオンラインにおいて開催し、2021年度事業報告・収支決算、2022年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2)日本人間工学会第63回大会を村田厚生大会長のもと2022年7月30日(土)~31日(日)に尾道市役所本庁舎・しまなみ交流館で開催した。
- (3)学会誌「人間工学」の第58巻2~6号及び第59巻1号の計6冊を発行した。
- (4)理事会を2022年5月17日、6月18日総会前後、10月3日、12月20日、2023年3月2日の計6回開催した。
- (5)2022年度論文賞(1件)、研究奨励賞(1件)、グッドプラクティス最優秀賞(1件)優秀賞(1件)、功労賞、トップ10%査読者賞、標準化貢献賞の表彰を総会時に行った。
- (6)人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者7名、準専門家合格者27名、アシスタント2名を新たに得た。その結果、2022年度末現在の認定人間工学専門家は213名、準専門家170名、アシスタント17名、シニアCPE12名となった。
- (7)以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

7-1) 広報委員会

ホームページでの情報発信、ニュースレターや支部大会での広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

7-2) 編集委員会

学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を軌道にのせるために、人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。1)理論系・実践系論文ごとによる査読基準、2)査読委員制度、3)迅速査読などの運用は継続しつつ、4)リサーチイシューの充実、5)実践系論文の増加、6)サステナブルな編集委員会運営について取り組んだ。また、7)表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)等を行った。2022年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が39編(採択21編、不採択14編、採択率60%)であった。

7-3) 国際協力委員会

IEA評議会(2022.10.31-11.1、デルフト)等、国際協力関連会議に委員長初め各委員が出席した。また、IEAとの連絡の窓口となり、JESの情報をIEAに展開するとともにIEAの情報をJESに展開した。また、JES-ESKジョイントシンポジウムの企画などを行った。

7-4) ISO/TC159国内対策委員会

DIS等の規格原案に関する計35件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議3回、分科会45回)審議を行った。また、国際会議出席(41回、延べ135名出席)などによってISOにおける人間工学標準の見直し、審議等に寄与した。

7-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営のもと2022年度各賞受賞者に対する授与式を行った。2022年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。

7-6) 安全人間工学委員会

安全工学シンポジウム2023(幹事学会)の実行委員長に佐相委員が就任し、「VUCAの時代の安全工学」をテーマとした大会の準備を進めた。安全人間工学ニュースレター(メールマガジン)で安全に関わるヒューマンファクターズに関心を持つ会員および非会員にシンポジウムや研究会の情報を発信した。

7-7) 学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

7-8) 若手支援委員会

前担当による企画として、第63回大会時に博士後期課程支援にかかるセミナーを開催した。新担当による企画として、若手会員(20代学部生・大学院生中心)の研究やキャリア形成を支援することを目的とし、第52回関東支部大会時に企画

セッションを開催した。当該企画で若手会員から出された意見やアイデアを具現化する準備を進めた。

7-9)企業活動推進委員会

委員会(全 11 名)を組織し、企業での人間工学活動の課題などの議論を経て、2022 年度日本人間工学会関西支部大会(2022 年 12 月 10 日)にて企画セッションを実施した。また、JES/CPE 会員を対象にアンケート調査(2023 年 3 月)を実施し、企業内活動の現状・課題などを把握することで、今後の活動につなげた。

7-10)国際誌検討委員会

特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)を進めるべく、投稿数確保戦略・運用方法について検討を進めた。

7-11)子どものICT活用委員会

文部科学省による GIGA スクール構想を背景とし、児童生徒が 1 人 1 台の情報端末を利用することを踏まえ、第 63 回大会にて、「子どもの ICT 活用と人間工学」と題したシンポジウムを開催した。発表は 5 件であり、それぞれの専門分野から、子どもの ICT 活用について報告した。

7-12)将来構想・普及委員会

委員メンバーによるオンラインのディスカッションを複数回実施し、人間を取り巻く技術環境の変化、また、人間工学設計の対象の変化について議論し、整理した。また、これまでの学会の組織的対外活動を総括し、特に行政に対する働きかけを強化し、人間工学の将来構想を関係省庁に積極的に説明し、人間工学会のプレゼンス向上を図ることとした。

7-13) PSE 委員会

2021 年に IEA が改訂した「Core Competencies in Human Factors and Ergonomics」日本語版を IEA Press から出版する準備をした。

7-14)第63回大会担当

日本人間工学会第 63 回大会(村田厚生大会長)を 2022 年 7 月 30 日(土)~31 日(日)に尾道市役所、しまなみ交流館(広島県尾道市)にて、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を施したうえで対面開催した。特別講演 1 件、企画シンポジウム 14 セッション、一般発表 174 件。

(8)支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計 7 支部と、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE 研究部会、科学コミュニケーション部会、衣服人間工学部会、医療労働関連 MSDs 研究部会、システム大会部会の計 12 研究部会が、多彩な活動を行った。

(9)関連学術団体等の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(10)学会事務局では、JENC 事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。さらに、学会誌や大会講演集の J-STAGE への公開を進め、学会 HP および JES ニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長:青木 宏文、副委員長:松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を行った。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内、社会発信等をホームページにて情報発信した。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、東海支部大会において過去事例の紹介を行い、掲載事例の増加に向けた活動を行った。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めるとともに、学会事務局、各委員会と連携し、広報活動を行った。
- (4) SNS の有効活用を検討し、23 年度から LINE 公式アカウントの運用を開始する予定。
- (5) 人間工学の裾野を広げる普及活動を検討し、23 年度から (公社) 発明協会の児童発明くふう展の中部地区から日本人間工学会賞を提供する。

3-2. 編集委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 2022年04月:第58巻2号 (pp.047-102) :エディトリアル2編、実践報告3編、原著論文2編 他
 - 2) 2022年06月:第58巻3号 (pp.103-154) :エディトリアル1編、実践報告2編 他
 - 3) 2022年08月:第58巻4号 (pp.155-206) :エディトリアル1編、実践報告1編、原著論文3編 他
 - 4) 2022年10月:第58巻5号 (pp.207-244) :エディトリアル2編、リサーチ・イシュー1編、実践報告1編、短報1編 他
 - 5) 2022年12月:第58巻6号 (pp.245-301) :エディトリアル1編、リサーチ・イシュー1編、実践報告1編、総説1編、原著論文1編 他
 - 6) 2023年02月:第59巻1号 (pp.001-052) :エディトリアル1編、実践報告1編、オープンデータ2編 短報1編 他
- (2) 第8期編集委員会では学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を軌道にのせるとともに、人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。
 - 1) 理論系・実践系論文ごとによる査読基準の継続運用
 - 2) 査読委員制度の運用
 - 3) 迅速査読制度の運用
 - 4) リサーチイシューの充実策の検討
 - 5) 実践系論文の投稿呼びかけ (東海支部大会・関西支部大会での投稿呼びかけプレゼン実施)
 - 6) サステナブルな編集委員会運営 (役割分掌の明確化)
 - 7) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用 (トップ10%査読者賞)
 - 8) 学会誌の発行形態に関する検討および国際誌検討委員会との協働によるジャーナル形態の検討
 - 9) JES63大会での編集委員会セミナー「採択論文の実例を用いた編集委員による査読ポイント解説講座」の開催
- (3) 編集委員会の開催
オンラインによる編集委員会を計4回 (6月、7月、11月、2月)、うち編集・査読合同委員会を2回開催した (7月、2月)。
- (4) 投稿論文数・採択率・査読期間
前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。
2022年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が38編であった。2022年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が39編 (採択21編、不採択14編、採択率60%) であった。また、2022年度に判定が確定した論文の1回目査読結果返却の平均日数は、採択論文20.7日、不採択論文21.6日、投稿から最終判定通知までの平均日数は、採択論文75.8日、不採択論文

- 34.4日であった。
(5)その他、編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎、副委員長:榎原 毅}

(1)委員会開催

MLによる委員会の開催、そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2)理事会審議・報告

広報委員会と共同で HFE Educational Map の 協力 についての審議、次回日韓共同シンポジウム の開催についての審議、IEA 人間工学の定義 和訳修正についての提案、国際学会の協賛依頼の承認、国際協力委員会 のウェブサイトにおける情報公開についての紹介、関連学会の日程と開催方法についての報告など

(3)国際交流

・IEA 評議会(デルフト、オランダ、10月31~11月1日)への出席

小谷委員長、鳥居塚委員が現地で出席し、榎原PSE Chair、河合 ICTchair、柴田委員がオンラインにて出席した。EC メンバー報告、PSE 委員会報告、IEA2021 大会準備状況、IEA Awards 委員会報告、諸団体との覚書について、監査報告、および各国加盟学会からの近況報告などが行われた。

・ACED評議会(オンライン、6月30日)への出席

・国際表彰対応(提出資料の準備、表彰委員会との連携、IEA Award Committee との事務対応)

・ESK 主催国際人間工学シンポジウムへ JES の研究者 3 名を派遣、招待講演としてオンラインにて発表(11月29日)

・JES-ESK ジョイントシンポジウムの企画、参加者数増加のための対策検討、全国大会と共催で行うことになった。

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋、副委員長:横井 孝志}

(1)委員会開催、国際会議出席状況

・国内委員会:全体会議 3 回、分科会 45 回(メール審議含む)

・国際会議出席状況:41 回の国際会議に延べ 135 名出席(ネット会議を含む)

(2)発行規格、投票

<新 ISO 規格>:0 件

<投票>:NP 6 件、CD 8 件、DTR 4 件、CIB 17 件

(3)分科会活動(メール審議含む)

・SC1(人間工学の一般原則)&WG 分科会 4 回開催

・SC3(人体寸法と生体力学) &WG 分科会 0 回開催

・SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG 分科会 29 回開催

・SC5(物理的環境の人間工学) &WG 分科会 10 回開催

・アクセシブルデザイン関連会議 分科会 2 回開催

(4)経済産業省の委託事業

令和 4 年度産業標準化推進事業(戦略的国際標準化加速事業:産業基盤分野に係る国際標準開発活動/テーマ名:インタラクションを成功させるための要件とプロセスに関する国際標準化)の活動に取り組んだ。また、その成果として、ISO/TC 159/AHG 2 Service Ergonomics の設立を日本から提案し了承された。

3-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治、副委員長:鴻巣 努}

(1)表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、人間工学専門家認定

機構等と連携し、公正な業務運営を行った。

- (2)2022 年定時社員総会において功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ 10%査読者賞、標準化貢献賞の授与式を行った。
- (3)関西支部大会、関東支部大会において、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4)功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ 10%査読者賞、標準化貢献賞候補の選考を行うとともに、表彰の準備を行った。
- (5)国際協力委員会とともに、IEA 等国内外の組織の表彰に対する推薦等を行った。
- (6)表彰委員会ウェブサイトの整備・拡充を行い、JES ホームページにおける表彰関係情報の整合を図った。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁、副委員長:狩川 大輔}

- (1) 芳賀(委員長、社会安全研究所)、狩川(副委員長、東北大学)、鳥居塚(日本大学)、佐相(電力中央研究所)、細田(関東学院大学)、藤野(福井県立大学)の 6 人で活動した。
- (2) 産業・組織心理学会第 145 回部門別研究会「多様な立場から安全の研究を考える」を共催した。(2022 年 5 月 28 日(土)、オンライン開催)
- (3) 研究会「人間を活かす安全性向上のアプローチとその実際」を東北支部と共催した。(2023 年 3 月 4 日(土)、ハイブリッド開催)
- (4) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2022 を日本人間工学会として共催し、実行委員会に藤野委員が参画した。また、日本人間工学会としてオーガナイズド・セッション「安全マネジメントの在り方の再考」を企画・実施した(オーガナイザー藤野委員)。
- (5) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2023 の実行委員長に佐相委員が就任し、「VUCA の時代の安全工学」をテーマとした大会の準備を進めている。安全人間工学委員会のメンバー 6 名に、小松原(早稲田大学)・中西(慶應義塾大学)両先生を加えた 8 名が企画運営委員として活動している。既に、特別講演、連携シンポジウム、学会企画セッションの提案を実行委員会に提案して認められた。
- (6) 第 22 回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップを日本原子力学会ヒューマン・マシン・システム研究部会および日本品質管理学会と共催した。(2022 年 5 月 14 日(土)、オンライン開催)
- (7) 安全人間工学ニュースレター(メールマガジン:52 名に配信)で安全に関わるヒューマンファクターズに関心を持つ会員および非会員にシンポジウムや研究会の情報を発信した。

3-7. 学術担当

{担当:青木 洋貴、能登 裕子、久保 博子}

横断型基幹科学技術研究団体連合における理事就任および委員長業務の遂行によって同団体における日本人間工学会のステータスの維持向上を図るとともに、これらの活動を通して日本学術会議および文科省科学研究費助成事業等の学術をめぐる政策・環境に関する情報獲得と学会へのフィードバックを継続的に実施した。

3-8. 人間工学専門家認定機構

{機構長:八木 佳子、副機構長:井出 有紀子}

(1)会員状況 (2023 年 3 月 31 日現在)

- | | | |
|------------|-------|---|
| 人間工学専門家 | 213 名 | (2022 年度 資格取得者 7 名、退会者 5 名) |
| 人間工学準専門家 | 170 名 | (2022 年度 資格取得者 22 名、退会者 20 名[内 2 名は専門家へ登録]) |
| 人間工学アシスタント | 17 名 | (2022 年度 資格取得者 2 名、退会者 1 名) |

シニア認定人間工学専門家 12名

(2) 資格認定試験及び審査実施状況

資格認定試験(A方式試験)を2回実施(東京2022年9月10日、大阪2023年2月18日)

受験11名、合格7名。初めての英語試験を実施(試験問題・面接を英語対応)。

準専門家・アシスタントの書類審査を年4回実施

準専門家:応募28名、書類審査に27名合格、1名は2023年度審査

アシスタント:応募2名、書類審査に2名合格

*再受験の際に本人が希望すれば、すでに合格している試験は一定期間免除できるように規程11条を改訂した。

(3) 定期総会の開催

日時:2022年4月22日(金)17:00~17:58 オンライン開催(zoom)

出席者:40名、委任状79名

(4) 幹事会の開催

第48回幹事会 日時:2022年7月7日(月)17:00~19:05 オンライン Zoom 開催

第49回幹事会 日時:2022年9月10日(土)15:05~17:10

リファレンス新有楽町ビル貸会議室 および オンライン Zoom 開催

第50回幹事会 日時:2023年2月6日(月)18:30~20:08 オンライン Zoom 開催

(5) 再認定の実施

資格更新時期を迎えた人間工学専門家、人間工学準専門家へ再認定手続きについて連絡し、手続きを進めた。

(6) 企画シンポジウムの開催

日本人間工学会第63回大会(尾道市)にてCPE企画シンポジウムを開催

2022年7月30日(土)15:20~16:50 G会場

CPEJ企画シンポジウム -R3年度ABW委員会の活動報告-

オーガナイザー・ハ木 佳子(イトーキ)

(7) 各支部大会にて機構の取り組みや資格メリットのPR・発表を実施

・北海道支部大会 (11/26開催) ・関東支部大会 (12/3-4開催、発表は12/4)

・東海支部研究大会 (10/29開催) ・関西支部大会 (12/10開催)

・九州・沖縄支部大会(12/9開催)

(8) イベントの開催

CPEセミナー(オンライン開催)

2022年11月10日 第1回 ABWの考え方と人間工学関連領域のISOについて 参加者68名

2022年11月22日 第2回 ABW委員会の活動報告と今後の展望 参加者54名

CPE交流会(CPEサロン)

日時:2023年3月1日(水)14:00~15:30 場所:芝浦工業大学豊洲キャンパス

テーマ:「医療機器ユーザビリティの今」 参加者:29名

(9) イベントの共催

日本人間工学会ワーク・アーゴノミクス研究部会セミナーを共催し、開催情報の広報、参加受付、当日の運営を行った。

【主催】日本人間工学会 ワーク・アーゴノミクス研究部会 【共催】人間工学専門家認定機構

2022年6月28日(火)17:30~19:00 第3回 働く環境「空気」

2022年9月5日(月)17:30~19:00 第4回 働く環境「コミュニケーション」

2023年1月18日(水)17:30~19:00 第5回 働く環境「ディスプレイ」

(10) ISO提案プロジェクト;ABW委員会の活動

機構内に設置したABW委員会に、機構会員から公募した3名の委員の参加を得て、経済産業省令和3年度産業標準化推進事業の一環として、ISO提案の前段階としての調査に取り組み、成果物として「ISO TR 9241-502:2023(E) Ergonomics of human-system interaction — Part 502: Ergonomics aspect of Activity Based Working」を作成した。成果物はISO TC 159/SC 4/WG3 国内対応委員会を通じてISO TC 159/SC 4/WG3 会合(国際会議)に提案された。

(11) 会報(Web版)の発行

会報 Vol.68 2022 年 8 月 22 日発行

会報 Vol.69 2022 年 11 月 15 日発行

会報 Vol.70 2022 年 12 月 23 日発行

(12)人間工学グッドプラクティス(GP)賞への協力

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6 月 18 日の 2022 年日本人間工学会定時社員総会にて第 10 回の表彰を行った。

(13)機構英語名称の検討・決定

機構の英語名称を検討し、下記に決定した。

The Board of Certification of Professional Ergonomists、JES (BCPE-J)

・略称は BCPE-J ・必ず(略称)を併記

(14)資格制度の見直し

アシスタントと準専門家資格について、名称および応募要件について見直しを行った。

(15) ビジョン実現に向けた IEA 改定コア・コンピテンシーについての調査

今後の CPE 像(ビジョン)実現に向け、改定された IEA(国際人間工学連合)の人間工学(HFE;Human Factors and Ergonomics)のコア・コンピテンシー読み解きのため、日本語に翻訳した。成果物は JES 理事会の確認の後、IEA プレスから出版予定。

[臨時委員会・担当]

3-9. 若手支援委員会

{委員長:神田 幸治、副委員長:境 薫、石橋 圭太}

- (1)第 63 回大会時に、加藤前若手支援委員長のオーガナイズにより、「若手支援企画・日本学術振興会特別研究員制度について」を開催した。若手支援に関して若手からの有意義な意見聴取ができた。
- (2)若手支援に関する基礎資料を作成した。2005 年度以降の正会員数、準会員数、正味財産の変遷をまとめた。近年、若手の入会が減少していることが示された。
- (3)第 52 回関東支部大会時に、企画セッション「若手支援企画:今、若手は人間工学会に何を求めているのか?」を開催した。冒頭、若手のキャリア形成という観点から、CPE の制度説明と資格の活用方法について講演があった後、若手登壇者から、研究交流の促進や、若手の入会を促すためのさまざまな意見やアイデアが出された。
- (4)前項の意見やアイデアのなかから、準会員から正会員への移行に促す補助制度の検討をはじめた。これ以外の若手からの要望も具現化する準備を進めた。

3-10. 企業活動推進委員会

{委員長:佃 五月、副委員長:横山 詔常}

- (1)委員会(全 11 名)を組織し、企業での人間工学活動の課題などをテーマに議論した(オンライン開催)。
- (2)上記の結果から、日本人間工学会の企業会員に対して、「人間工学」を社内でもっと役立ててもらうためのヒントになるような情報を提供することを目的としたイベントの企画などを検討した。
- (3)2022 年度日本人間工学会関西支部大会(2022 年 12 月 10 日)にて、「~企業のみなさんへ~ 人間工学をもっと役立てるために」と題して企画セッション(登壇者 3 名:佃五月、仲谷 尚郁、横山詔常)を実施した。
- (4)企業における人間工学を活用した製品・サービス開発の現状や課題について把握し、今後の委員会活動に活かすことを目的として、JES/CPE 会員を対象にアンケート調査(2023 年 3 月)を実施した。
- (5)上記のアンケート調査の結果については、今後、大会などを通じて情報発信していくことを検討中。

3-11. 国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志、下村 義弘}

- (1) 前年度に引き続き、日本人間工学会による学術成果の国際発信基盤の整備について検討を行った(7/14、9/26、オンライン開催)。
- (2) 特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)、③創刊時にオンラインジャーナルへ移行、④IEA Endorsement Journal 化、の4つの方向性について検討を重ねた。

3-12. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく、そして実用的なガイドラインの作成をこれまでに検討してきた。そして、委員会のウェブサイトを作成し、学校での ICT 機器利用において安全面や健康面の配慮をした方がよい点をまとめ、情報公開している。当該ウェブサイト、デジタル機器の利用による子どもの健康をテーマとして紹介するなどして活用した。
- (2) 文部科学省による GIGA スクール構想を背景とし、児童生徒が1人1台の情報端末を利用することを踏まえ、第63回大会にて、「子どもの ICT 活用と人間工学」と題したシンポジウムを開催した。発表は5件であり、それぞれの専門分野から、子どもの ICT 活用について報告した。

3-13. 将来構想・普及検討委員会

{委員長:持丸 正明、副委員長:青木 宏文、榎原 毅}

委員メンバーによるオンラインのディスカッションを複数回実施し、人間を取り巻く技術環境の変化、また、人間工学設計の対象の変化について議論し、整理した。また、これまでの学会の組織的対外活動を総括し、特に行政に対する働きかけを強化し、人間工学の将来構想を関係省庁に積極的に説明し、人間工学会のプレゼンス向上を図ることとした。

3-14. PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇、副委員長 八木 佳子}

2021年にIEAが改訂した「Core Competencies in Human Factors and Ergonomics」の日本語版をIEA Pressから出版する準備をした。

3-15. 第63回大会担当

{担当:村田 厚生}

2022年7月30日(土)~31日(日)に日本人間工学会第63回大会を尾道市役所、しまなみ交流館(広島県尾道市)にて、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を施したうえで対面開催した。なお、コロナ感染や体調不安等により来場できなかった発表者については、参加費支払および原稿提出をもって大会で発表したものとみなし、予稿集への掲載を行った。

<発表内訳>

- (1) 特別講演「Metaergonomics: Artificial Intelligence, Metahuman-Centered Design, and Technological Life」
講師:Prof. Waldemar Karwowski (University of Central Florida)

司会:村田厚生 大会長(岡山大学)

(2) 企画シンポジウム 14 セッション(発表演題 35 件)

(3) 一般演題 174 件

(4) 懇親会

場所:尾道国際ホテル

日時:2022 年 7 月 30 日(土)18:30~20:30 参加者 100 名

<参加者内訳>

当日来場者数 417 名

うち事前登録者数 341 名(376 名の事前登録があったが、35 名が欠席)

うち当日参加登録者数 76 名

事前登録者内訳		当日参加登録内訳	
賛助会員・名誉会員	22	正会員	26
正会員	182	準会員	1
準会員	26	非会員(個人)	23
非会員(個人)	66	非会員(学生)	10
非会員(学生)	80	その他	16
合計	376	合計	76

4.支部活動

4-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

(1) 支部役員会

日時: 2022年7月4日(月) 10:00~10:45

場所: オンライン

議題: 理事会報告、第8期 北海道支部役員案、2021年度 事業報告、2021年度 決算報告、2022年度 事業計画、2022年度 予算執行計画、その他(全国大会の開催について)

(2) 支部総会および支部大会

日時: 2022年11月26日(土) 12:30~17:45

場所: 小樽商科大学 小樽キャンパス 3号館104号室、およびWeb会議(Zoom)

1) 支部総会

議題: 2021年度 支部事業報告、2021年度 決算報告、2022年度 支部事業計画、2022年度支部予算執行計画、第8期役員

2) 支部大会

大会長: 首藤 英里香 (札幌保健医療大学)

13:10~13:15 開会の辞 大会長: 首藤 英里香 (札幌保健医療大学)

13:15~14:45 一般演題I 座長: 小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

1. 人間工学に関連した研究倫理の課題

○福住 伸一 (理化学研究所/公立千歳科学技術大学)

2. 自動運転バスと周辺車両ドライバとのインタラクションに関する研究

○亀井 蓮斗、平沢 尚毅 (小樽商科大学)

3. 観光情報サイトにおける満足と顧客経験との関係

○野宮 綾香、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

4. 拡張現実体験における音像定位が気分にあげぼす影響

○嵯峨 史也、曾我 聡起、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

5. 北海道在住脳卒中患者を対象としたインタビュー分析による短下肢装具および装具提供サービスに対するニーズの把握

○佐藤 健斗 (北海道科学大学/公立千歳科学技術大学)、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

6. 「活かそう!」人間工学専門家

○八木 佳子 (人間工学専門家認定機構/(株)イトーキ)、井出 有紀子 (人間工学専門家認定機構/日本電気(株))

15:00~16:30 一般演題II 座長: 平沢 尚毅 (小樽商科大学)

1. 脈波振幅の標準偏差による簡易指標の妥当性

○三宅 晋司 (公立千歳科学技術大学)、黒坂 知絵、倉岡 宏幸 (産業医科大学)

2. VRによる自然環境が創造性に及ぼす影響

○千葉 大暉、三宅 晋司、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

3. 仮想空間内での背景音の影響

○堀 伊吹、三宅 晋司、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

4. 心理生理学的指標に基づくスマートフォンに用いる振動パターンの設計

○福田 龍誠、三宅 晋司、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

5. 瞳孔反応によるWebサイトのユーザエクスペリエンス評価

○中居 真愛、三宅 晋司、小林 大二 (公立千歳科学技術大学)

6. 札幌地区における訪問看護ステーションの現状調査

○寺島 樹 (小樽商科大学)、照井 レナ (日本医療大学)、平沢 尚毅 (小樽商科大学)

16:40～17:40 基調講演『地域・在宅看護の“鳥の目・虫の目・魚の目”～人間工学的視座から～』

照井 レナ（日本医療大学総合福祉学部教授）

17:40～17:45 閉会の辞 大会長：首藤 英里香（札幌保健医療大学）

4-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

(1) 東北支部定時総会

・日時:2022年5月13日から5月20日18時まで(メール審議)

・場所:電子メールによる開催

・議題:1. 2021年度事業報告、2. 2021年度決算報告(案)、3. 2022年度事業計画(案)、4. 2022年度事業予算(案)

(2) 支部役員会

1) 第1回役員会:

・日時:2022年12月17日(日)13:00～13:45

・場所:山形テルサ研修室A室(山形市)(オンラインによるハイブリッド開催)

・議題:理事会報告、次回研究会、その他

2) 第2回役員会:

・日時:2023年3月4日(土)13:00～13:40

・場所:東北大学青葉山キャンパス(仙台市)(オンラインによるハイブリッド開催)

・議題:理事会報告、次年度の研究会、東北支部メンバーの研究紹介、その他

(3) 支部研究会

1) 第1回研究会:

・テーマ:ものづくり現場における人間工学 Part VII

・企画:山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)・本多薫(山形大学)

・日時:2022年12月17日(土)14:00～16:00

・場所:山形テルサ研修室A室(山形市)(オンラインによるハイブリッド開催)

・趣旨:同一テーマでの開催も今回で7回目となります。今回も製造現場の働きやすさを目的とした中小企業の現場改善の取組みについてご紹介させて頂き、ものづくり現場において人間工学がどのように寄与できるか、また、その知見の他産業への活用の可能性について意見交換を行えればと考えております。

・趣旨説明:講師紹介と最近の取組み紹介

働きやすさの実現を目的としたデザイン思考に基づく現場改善 山口俊憲氏(山形県立産業技術短期大学校)

・講演:精密板金工場における既存の生産管理システムと融合した生産の進捗・作業状況把握システムの開発

山形県立産業技術短期大学校産業技術専攻科・社会人学生

2) 第2回研究会(安全人間工学委員会と共催):

・テーマ:人間を活かす安全性向上のアプローチとその実際

・企画:狩川大輔(東北大学)・高橋信(東北大学)

・日時:2023年3月4日(土)14:00～17:00

・場所:東北大学青葉山キャンパス(仙台市)(オンラインによるハイブリッド開催)

・趣旨:従来の産業システムの安全対策では、人間をシステムの脆弱性の原因と見なし、自動化やマニュアル化を通じたパフォーマンスの信頼性向上をその基本方針としてきました。しかしながら、近年では、Safety-IIに代表されるように、人間の持つ変化に対する柔軟な適応能力(レジリエンス)の本質的な重要性が再認識されています。そのような新たな見方に基づく安全性向上の取り組みとして、現在、我が国ではどのような研究や実践が行われているのでしょうか。また、得られた知見を幅広く共有し、活用していく上ではどのような課題があるのでしょうか。安全人間工学委員会と東北支部による今回の共催研究会では、様々な面で特徴の異なる2つの産業分野(航空分野と建築分野)から講師をお招きし、それぞれの分野における取り組みの概要をご紹介頂くと共に、両分野の共通点と相違点、新たな安全性向上のアプローチを実際に活

かしていく上での難しさや疑問についても率直に意見交換したいと考えています。それを通じて、人間のレジリエンスを活かした新たな安全を実現する上で、人間工学ができる貢献について考える機会としたいと思います。

・趣旨説明:趣旨説明と講師紹介 狩川大輔(東北大学)

・講演 1: さらなる安全への挑戦 Resilience Operation Monitoring
関 達雄 氏(日本航空株式会社 運航本部 運航安全推進部)
本木 宏 氏(日本航空株式会社 運航本部 運航訓練部)

・講演 2: 建築分野における新たな安全性向上のアプローチ
講師 高橋 明子 氏(独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所)

4-3.関東支部

{支部長:三林 洋介}

(1) 第 52 回関東支部大会・第 28 回卒業研究発表会

1)開催日:2022 年 12 月 3 日(土)~ 4 日(日)

2)会場:白鷗大学 本キャンパス(栃木県小山市)

3)大会長:船田眞里子先生(白鷗大学)

4)参加者 153 名(正会員: 51、非会員: 6、学生:96)

5)演題数件(一般演題 5 セッション 15 件、卒業研究 7 セッション 21 件、企画セッション 3 件)

6)特別講演:1 件「メタバースによる新経済圏-バーチャルエコノミーと人間工学」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 持丸正明先生

(2)支部委員会、支部総会

1)第 1 回委員会

・開催日:2022 年 6 月 17 日(土)

・場所:オンライン開催(Zoom)

2)第 2 回委員会、総会

・開催日:2022 年 12 月 3 日(土)

・場所:白鷗大学本キャンパス(栃木県小山市)

(3)見学会(含む講演会)

1)日時:2023 年 3 月 17 日(金) 13:00~12:00

2)場所:宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センター

3)講師 富田健斗氏(有人宇宙技術部門)

4)演題:「きぼう」の運用と宇宙飛行士の訓練

(4)ニュースレターの発行:

メーリングリストにより支部大会・総会の案内、講演会の案内を発行

4-4.東海支部

{支部長:斎藤 真}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

開催日時: 2022年5月14日(土) 15:00-15:30

開催方法: オンライン(Zoom)

(2) 支部役員会

第1回支部役員会 2022年5月14日(土)13:00-14:30 オンライン(Zoom)

第2回支部役員会 2022年10月4日(土)18:00-19:30 オンライン(Zoom)

第3回支部役員会 2023年4月10日(月)18:30-19:30 オンライン(Zoom)

その他、メール審議

(3) 日本人間工学会東海支部 2022 年研究大会の開催

開催日: 2022年10月29日(土)

開催場所: 朝日大学保健医療学部(岐阜県瑞穂市穂積1851-1)

大会長: 朝日大学保健医療学部 菅嶋康浩 先生

特別講演: 「介護予防を目指すための新しい機能評価の試みと最近の高齢者向けADLTトレーニングの実際」

演者: 朝日大学 教授 竹島 伸生 先生

概要: 一般講演28演題、参加者78名

特別企画: SEGs2040発表記念企画「SDGs/SEGs達成に向けたプロジェクト改善エルゴノミクソン」

ファシリテーター: 宇野直士先生(山陽小野田市立山口東京理科大学)

特別企画: 実践報告

MSDs研究部会報告

「活かそう!」人間工学専門家

編集委員会紹介「人間工学誌に投稿しませんか?」

ERGO Directory: 人間工学の総合データベース紹介

(4) 東海支部企画

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

4-5. 関西支部

{支部長: 小谷 賢太郎}

(1) 企画・行事等

1) 第1回見学会

日程: 2022年10月18日(火)

見学先: 情報通信研究機構(NICT) 未来ICT研究所

内容: 超電導ナノワイヤ単一光子検出器、深紫外光 ICT デバイス、仮想空間活用(HoloLens)の紹介およびデモ

参加者: 18名

2) 第2回見学会

日程: 2023年2月24日(金) 13:20~15:00

見学先: 神姫バス株式会社 ウッディタウン地区(兵庫県三田市)

内容: ITS(Intelligent Transport System: 高度道路交通システム)を活用した中型自動運転バス実証実験の紹介および試乗会

参加者: 14名

3) 支部大会

日程: 2022年12月10日(土)

会場: 近畿大学東大阪キャンパス(ハイブリッド開催)

大会長: 佐藤望 先生(近畿大学 総合社会学部)

参加者: 合計 60名(対面 48名、オンライン 12名)

(正会員 43名、非会員(一般) 2名、学生 14名、顧問 1名)

4) 春季講演会

日程: 2023年3月18日(土)(ハイブリッド形式、支部総会と併催)

会場: 大阪工業大学 梅田キャンパス 11階1104教室

主催: 日本人間工学会関西支部、共催: 日本人間工学会 PIE 研究部会、大阪工業大学

講演:

1. 「体表面貼り付け型深部体温・血糖値計測デバイスの開発」

- 田中 雄次郎 氏 (NTT 先端集積デバイス研究所、バイオメディカル情報科学研究センター)
2. 「マルチデバイス生体計測システム HuME (Human Metrics Explorer)™の開発」
古田 雅史 氏 (株式会社島津製作所 基盤技術研究所、脳五感ユニット)

(2) 会議・総会等

1) 第 1 回幹事会

日 程: 2022 年 7 月 6 日 (水) 18:00~19:30

会 場: Zoom によるオンライン開催

2) 第 1 回評議員会役員会合同会議 (関西支部大会と併催)

日 程: 2022 年 12 月 10 日 (土) 16:30~17:30

会 場: 近畿大学ならびにオンラインによるハイブリッド開催

3) 第 2 回幹事会

日 程: 2023 年 2 月 22 日 (水)

開催方法: オンライン開催

4) 第 2 回評議員会 (優秀発表賞メール審議) 2023 年 3 月 2 日 (木)

5) 第 2 回評議員会役員会合同会議 (支部総会と併催)

日 程: 2023 年 3 月 17 日 (金)

会 場: Zoom によるオンライン開催

6) 支部総会

日 程: 2023 年 3 月 18 日 (土)

会 場: 大阪工業大学 梅田キャンパス 11 階 1104 教室 (ハイブリッド形式)

7) 優秀発表賞 授賞式 (支部総会と併催)

受賞者

・榎本夕奈 (奈良女子大学大学院): 大学生の入眠・覚醒リズムに関する調査研究

- 2019 年から 2022 年における実測調査 -

・杉山直磯 (京都工芸繊維大学): 視覚情報のみで判断される高齢者の姿勢評価に関する研究

- 医療従事者によるケンダル分類を用いて -

・武岡楓 (関西大学): HMD の重量が仮想現実環境における眼球頭部協調運動にもたらす影響

4-6. 中国・四国支部

{支部長: 石原 茂和}

(1) 日本人間工学会第 63 回大会 実施

2022 年 7 月 30・31 日 (土、日) 尾道市市役所本庁舎、しまなみ交流館にて開催。

大会長: 岡山大学 村田厚生先生

大会参加者は 417 名と大盛況で、全国からご参加の先生方、本部および運営にご協力いただいた先生方に感謝します。

<https://www.ergonomics.jp/conference/2022/index.html>

(2022 年は、支部大会を独立して開催しない。支部会員の積極的発表参加をプロモーションした)

4-7.九州・沖縄支部

{支部長:庄司 卓郎}

(1)2022 年度支部代議員会

- 1)月 日:2022 年 12 月9日(金) 支部大会中に実施
- 2)会 場:JR 博多シティ9 階 会議室 3(オンラインとのハイブリット)
- 3)議 題
 - ・2021 年度会計報告
 - ・2022 年度予算案
 - ・その他

(2)2022 年度支部総会

- 1)月 日:2022 年 12 月9日(金) 支部大会中に実施
- 2)会 場:JR 博多シティ9 階 会議室 3(オンラインとのハイブリット)
- 3)議 題
 - ・2021 年度会計報告
 - ・2022 年度予算案
 - ・その他

(3)九州・沖縄支部第 43回大会

- 1)月 日:2022 年 12 月9日(金)
- 2)会 場:JR 博多シティ9 階 会議室 3(オンラインとのハイブリット)
- 3)大会長: 庄司卓郎(産業医科大学)
- 4)発表演題数:特別講演 1 件、企画セッション 2 件、一般講演 20 件
- 5)参加者:38名(内オンライン参加者6名)
- 6)特別講演
 - 河村洋子(産業医科大学)「ヒューマニスティックな社会課題解決のかたち」
- 7)企画セッション
 - ・井出有紀子(人間工学専門家認定機構(CPE)、日本電気(株))「「活かそう!」人間工学専門家」
 - ・榎原毅(産業医科大学)「編集委員会企画:人間工学誌に投稿しませんか?」
- 8)表彰
 - ・最優秀発表賞
 - 「ロービジョンに見られる視覚状態が空隙またぎ動作に与える影響」
 - 松尾泰平(九州大学大学院芸術工学府)
 - ・優秀発表賞(発表順)
 - 「AR を利用した安全教育教材の作成とその効果の検証」
 - 佐藤優希(産業医科大学)
 - 「左利き者の書字動作における適切な姿勢の提案」
 - 山崎美怜 九州大学芸術工学部工業設計学科
 - 「筆記具の把持補助機構による筋活動への影響」
 - 遠藤 佑輝(千葉大学大学院融合理工学府)

5.研究部会活動

5-1.航空人間工学部会

{部会長:竹内 由則}

(1)内容

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2)方法・手段

1)第103回例会(公開講座)

新型コロナウイルスによる感染拡大の状況を踏まえて、一昨年は休止、昨年度はオンライン形式にて開催した例会(公開講座)であったが、今年度は2年ぶりに対面式による開催となった。

日時:2022年6月23日(木)13:00-17:10

形式:対面式

場所:野村不動産天王洲ビル2階ウイングホール

講演内容:

- ①「疲労リスク管理について」JAL 宮地秀明様、椎名拓様
- ②「PSP(ピアサポートプログラム)体制について」
ANA 高柳英治様、醍醐修様、松本英晃様、阿部孝祐様
- ③「後方乱気流区分の再分類RECATについて」JAXA 又吉直樹様
- ④「次世代航空モビリティを取り巻く状況」JCAB 原健治様

参加者数:79名

2)施設見学会

新型コロナウイルス感染拡大を受け、施設見学会は2年間のあいだ実施を見合わせていたが、今年度は状況を踏まえて再開した。ただし、感染拡大の防止、及び感染者発生時の対応のため、参加者は、部会長、委員、幹事に加えて、関連会社に所属するものに限定して募集を行った。

日時:2023年3月15日(水)

場所:ブリヂストン株式会社グローバル防災センター(東京都小平市)

3)部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示を行った。

4)委員会・幹事会の開催

A. 委員会

例会(公開講座)終了後に第74回委員会を、2023年度の本部会の運営に係る方針を決定するために年度末に第75回委員会を開催した。そのほか、必要に応じてメールによる周知、検討、調整を行った。

- ① 第74回委員会(2022年12月27日、13:00-14:05)、Teamsによるオンライン形式

議題:

- ・2022年度委員及び幹事の確認、JAL委員の交代の報告
- ・第103回例会(公開講座)開催報告

- ・2022 年度 収支状況報告
- ・下期活動である施設見学会の開催可否、及び見学先について
- ・第 104 回例会(公開講座)に向けた準備状況報告
- ・研究部会継続申請について(5 年ごとの更新時期であるため)

② 第 75 回委員会(2023 年 3 月 22 日、14:00-14:40)、Teams によるオンライン形式

議題:

- ・2022 年度 事業報告・会計報告
- ・2023 年度 事業計画・収支予想
- ・第 104 回例会(公開講座)の準備状況
- ・研究部会の継続について(研究部会規程第 6 条の改訂を受けて)
- ・今後の予定

B. 幹事会

3 回(4、12、3 月)開催

幹事会を開催し、例会及び見学会の開催可否や形式等について議論を行い、部会活動を円滑に進めるとともに、会員の意見を部会活動に反映させることができた。

(3) 成果

コロナ禍のために活動を行うことができなかった一昨年、及び、例会(公開講座)のみをオンライン形式にて開催した昨年に続き、今年度はようやく 2 年前と同等の活動を実施することができた年であった。

例会(公開講座)を対面式にて行ったことにより、講演に対する活発な質疑応答だけでなく、会場の各所にて会員同士の再会があり、情報共有・情報交換が行われている様子がかがわれ、当研究部会の活動目的である会員相互の情報交換の場を提供することができたと考えられる。昨年度は 200 名を超えた参加者が、今年度は 80 名程度と減少したことについては、オンライン形式と対面式との影響によるものと考えられ、今後、時勢を踏まえての開催形式を検討していくことが望ましいと考えられる。

施設見学会については、株式会社ブリヂストン殿のご厚意により、社員研修の施設である「グローバル防災センター」を見学させていただいた。「安全はすべてに優先する」という安全宣言のもと、防災事故の原点を振り返るために取り組まれている教育・研修の内容を拝聴し、体験することができた。質疑応答も行われ、参加者にとって、それぞれ学ぶことの多い機会となった。

5-2.アーゴデザイン部会

{部会長:高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。2022 年度は「「Future Experience」~ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法~」を活動テーマに、フューチャーエクスペリエンスの実践を中心に進め、三方よしのビジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員 : 93 名(正会員 62 名、学生会員 31 名、2023 年 3 月 31 日現在)
- ・活動概要 : 2022 年度は、日本人間工学会企画シンポジウム 1 回、コンセプト事例発表会 1 回、FX フォーラム 1 回、合宿研究会 1 回、幹事会 5 回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 日本人間工学会 第 63 回大会 企画シンポジウム (2022 年 7 月 31 日)

於:尾道市役所2階

「個人 ID による信頼のビジョンデザイン ~Future Experience ワークショップより~」

オーガナイザー:高橋 克実(日本人間工学会アーゴデザイン部会)

2) 2022 年度コンセプト事例発表会開催 (2022 年 9 月 20 日)

於:日本工業大学神田キャンパス 参加者:45名

特別講演 1件「ヒトの心身機能に基づくこれからの快適なモノのデザインに関する一考察」

岡田 明(大阪市立大学大学院 生活科学研究科)

口頭発表 4件

ポスター発表 14件

3) ビジョンとクオリティ~HCD事例発表会 + Future Experience(FX)フォーラム開催(2023年1月13日)

於:株式会社島津製作所 本社 参加者:80名(対面:43名、オンライン:37名)

発表4件を実施。

◆「体験設計のテーマ創出と社会実装~ ビジョンデザインのクオリティはテーマ設定と社会実装から~」

高橋 克実(株式会社ホロンクリエイト/一般社団法人体験設計支援コンソーシアム)

◆「社会実装に向けたビジョンの評価」

早川 誠二(HCD YOROZU Consulting)、郷 健太郎(山梨大学)

◆「ビジョンづくりから社会実装への実践的なやり方~ 社会実装できるクオリティを創る伴走プロセス
や手法について~」

上田 義弘(y2.Design Consulting)

◆「ビジョンと社会実装」

山崎 和彦(武蔵野美術大学/X デザイン研究所)

4) 2022 年度合宿研究会(2023 年 3 月 17 日-18 日)

於:クロスウェーブ府中 参加者:18 名

<テーマ>「社会の未来、アーゴデザインのビジョン」

~参加者の皆様と考えるアーゴデザイン新5カ年の在り方~

発表3件を実施。

◆「日本人間工学会の今後のあり方」

笠松慶子(東京都立大学)

◆「アーゴデザイン部会の未来検討ワーキンググループの報告」

石山泰弘(理想科学工業株式会社)

◆「アーゴデザイン部会の次期 5 年計画(案)について」

高橋 克実(株式会社ホロンクリエイト/一般社団法人体験設計支援コンソーシアム)

参加者全員によるライトニングトーク、グループでの討論を実施。

5) その他の活動

・FX_WG 活動中。(担当幹事:高橋、上田、石山、笠松、郷、西内、早川、細田、山崎)

・UD 実践ガイドライン WG 関連活動休止中。(担当幹事:山崎、柳田)

・アーゴデザイン未来 WG 活動中。(担当幹事:石山、大原、笠松、西内、西平)

・ホームページ運用。(担当幹事:早川、高橋)

・学生会員に対する指導、啓蒙を実施。(担当幹事:笠松、西内、細田、吉武)

- ・アーゴデザイン部会メールマガジンの発行。(担当幹事:石山)
- ・会員及び幹事会メーリングリスト及び、ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営。
- ・Slack による運営情報交換。
- ・コロナ禍の影響で見学会は休止中。

(3)成果と展望

- ・社会、環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス(FX)の概念を提唱し、ビジョン構築の手法を考察し、FXの実践的な手法について検討を行ってきた。
- ・今後は、FXのために進化させた Experience Vision の手法を教育の場に広げ、デザインやビジネス教育の現場でどのように指導していくかの検討を進めていきたい。

5-3.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:笠松 慶子}

(1)活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2)手段・方法

1) 研究室間交流会: 2022 年 12 月 13 日(火) オンライン開催

参加研究室 東京都立大学笠松研究室、石原研究室、東京工科大学相野谷研究室

今年度は部会関係の 3 つの研究室による研究室紹介および、学生からの 9 件の発表を行い、情報交換やディスカッションを行なった。部会以外からの参加もあり、22 名の参加者となった。今後は、部会だけにとどまらない研究室間の交流につなげたい。

2) 研究会:ジョイントシンポジウムとして、東京都立大学サービスロボットインキュベーションハブ・リサーチコア、コミュニティ・セントリック・システム研究センターと本部会との共催で開催した。

2023 年 3 月 13 日(月) 15:00-17:00

ハイブリッド開催(東京都立大学日野キャンパス 2 号館 4 階 401 教室および zoom)

参加者数:54 名

部会長による挨拶後、話題提供として、以下の 4 名の先生方からご講演いただいた。

- ・武居直行(東京都立大学 准教授)「リアルロボット」
- ・西内信之(東京都立大学 教授)「サービスロボットとユーザエクスペリエンス評価」
- ・大保武慶(東京都立大学 助教)「スマート共生社会における計算論的システム・ケア」
- ・相野谷威雄(serBOTinQ Managing Director)「これからの共創」

3) 第 30 回システム大会の感性・官能セッション:2023 年 3 月 10、11 日(金、土)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。なお、詳細はシステム大会部会より報告。

4) 幹事会の開催:オンラインにて 3 回開催し部会の活動、今後について議論した。その他、メーリングリストにて情報共有、審議を行った。

(3)成果及び展望

企業活動の HCD 活動実践例、ものづくりの現場においてデザイナーが技術をどのように活用しているか、これからのモビリティのあり方とロボット技術の活用について、企業を中心とした異業種の専門家が連携して、新たな価値創造を生むための試みが多くなされている現状の情報提供と情報交換の場を設け、各テーマについて議論することができた。日本におけるモノづくりの品質において、工学が関わる“当たり前の品質”とともに、新たに個人の主観に深く訴える感性価値や経験価値の重要性が増し、その品質の捉え方を探求していく必要性があると考えられる。

今後も引き続き、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究に関する、発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供して行きたい。

5-4.海事人間工学研究部会

{部会長:才木 常正}

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2)手段・方法

1)企画セッションの実施

2022年7月30、31日に開催された日本人間工学会第63回大会にて、下記の企画セッションを実施した。

テーマ:海事人間工学研究の現状と課題

目的:海事人間工学研究部会では、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品の導入を進めてきた。そこで、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を図るため、最新の研究紹介と今後の課題について議論するシンポジウムを企画した。講演では、自動運航船開発の動向、船員スキルに関する研究、ダイバーの生体電位計測技術 など、海事人間工学関連の最新研究事例を紹介した。

オーガナイザ:吉村健志(海上技術安全研究所)

座長:村井康二(東京海洋大学)

講演:

1. 「自動運航船の実用化に向けた海上技術安全研究所の取組み(第三報)」○國分健太郎(海上技術安全研究所)
2. 「シミュレーションを用いた自動化システムの安全性評価」○南 真紀子(海上技術安全研究所)
3. 「船員スキル定量化に関する取組み」○村井康二(東京海洋大学)、堀 晶彦(海技教育機構海技大学校)
4. 「海での遊泳中の生体電位計測装置の開発と実験」○中谷真太郎(鳥取大学)、岡本真宙(鳥取大学)、有馬正和(大阪公立大学)、才木常正(兵庫県立工業技術センター)

2)見学会の開催

2023年2月6日に、海洋環境学の側面から人間工学のあり方を考えるため、海洋生物、付着生物の調査試験、研究開発に特化した世界で唯一の企業である株式会社セシルリサーチ(兵庫県姫路市)を見学した。更に、2023年2月6日には、スキューバダイビングに関する研究開発を行っている兵庫県立工業技術センター(兵庫県神戸市)に伺い、様々な分析および加工装置を見学した。

3)幹事会の開催

2022年7月30日にしまなみ交流(広島県尾道市)で第1回幹事会を2023年2月6日に兵庫県立工業技術センター(兵庫県神戸市)で第2回幹事会を開催し、2023年度の本研究部会の事業計画(案)を策定した。

(3)成果

学会の企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。また、2回の見学会を通じて海事人間工学における幅広い知識を得ることができ、その後の座談会において当研究部会会員メンバーで新しい研究テーマ「遠洋航海における園芸セラピーに関する研究」を立ち上げる運びとなった。

(4)展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション、見学会、座談会等を開催する。更に、当研究部会の活動を広く知ってもらうために、当学会以外にも積極的に情報を発信して行く。

5-5.ワーク・アノミクス研究部会

{部会長:青木 和夫}

(1)テーマ

オフィスワークではテレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。またCOVID-19の感染拡大により在宅勤務が増加し、在宅で適切な作業環境を設定することが課題となっている。そこで研究部会では自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学専門家向けに提供するとともに、一般向けにもFAQとして知識を提供してきた。今後はこのFAQを充実させるとともに、オフィスワーク以外の働く場についての課題を検討することとした。

(2)活動内容

1)幹事会 2022年4月25日、2022年10月17日、2023年1月20日の3回、Zoomによる幹事会を開催した

2)第63回大会における企画セッション「自動車産業における技術者の働き方と新しい役割」

- ①「NAロードスターのレストアとクラフトマンシップ」横川正喜((株)マツダE&T)
- ②「自動車産業における女性技術者の働き方」塚田竹美((株)本田技術研究所)
- ③ディスカッション 司会:堀江良典(日本大学)

3)セミナーの開催

・第3回 働く環境「空気」(2022年6月28日:Zoom開催)参加者68名

- ①生活空間と熱環境 三上功生(日本大学生産工学部)
- ②室内における化学物質管理 城内博(労働安全衛生総合研究所)
- ③質疑応答 司会:青木和夫(日本大学)

・第4回 働く環境「コミュニケーション」(2022年9月5日:Zoom開催)参加者58名

- ①メタバースで人々は心をオープンにするか? —オンラインコミュニケーションツールと自己開示への影響— 市野順子(東京都市大学メディア情報学部)
- ②テーブルの高さ・大きさが会話者の行動に与える影響 古山宣洋(早稲田大学人間科学学術院)
- ③質疑応答 司会:浅田晴之((株)オカムラ)

・第5回 働く環境「ディスプレイ」(2023年1月18日:Zoom開催)参加者58名

- ①多様化したwork style に対する電子情報ディスプレイの最新動向と人間工学 久武雄三(静岡大学イノベーション社会連携推進機構)
- ②質疑応答 司会:青木和夫(日本大学)

4)会報・人間工学専門家認定機構への掲載

- ①青木和夫(日本大学):「報告:日本人間工学会ワーク・アノミクス研究部会セミナー 第3回 働く環境「空気」~快適な温熱環境と安全な空気を~」Vol.68、2022.8.22
- ②浅田晴之(株式会社オカムラ):「報告:日本人間工学会ワーク・アノミクス研究部会セミナー 第4回 働く環境「コミュニケーション」」Vol.69、2022.11.15

(3)成果と展望

人間工学専門家認定機構と共催で働く環境等に関するセミナーを開催することによって、テレワークの人間工学のFAQを充実させるとともに、人間工学専門家に働く環境の設定方法についての知識を伝えることができた。また第63回大会の企画セッションで自動車産業における技術者の働き方や役割について議論することによって、自動化が進む生産現場で働く人々の働き方の新しい傾向を知ることができた。

今年度をもって5年の活動期間が満期となるが、今後も研究部会を継続し、様々な仕事に従事する人々を支援するための人間工学の役割を果たしてゆきたい。

5-6. 自動車人間工学研究部会

{部会長:石橋 基範}

(1)活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

- 1) 自動運転や空飛ぶクルマといった将来モビリティに関する議論
- 2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

(2)方法・手段

- 1) 第 63 回大会で研究部会独自のシンポジウムを実施する。

(3)成果

- 1) 第 63 回大会(2022.7.31)で、以下の研究部会企画シンポジウムを実施した。

・テーマ:クルマの「使いやすさ」開発における人間工学の実践

・内容:

ドライバ姿勢を考慮したコックピット開発の実践(スズキ(株)・堀田英則)

運転支援におけるハンズオフ機能の有効性と負担軽減モデル(本田技研工業(株)・塚田竹美)

コックピット開発におけるドライビングシミュレータの活用事例(日本大学大学院・美記陽之介)

5-7.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

(1)活動主テーマ

- 1) 人間工学分野における実践的データ活用の検討と共有
- 2) ビッグデータ人間工学ノウハウ集の拡充と活用

(2)主な活動内容と手段・方法

1) 幹事会の運営

幹事会運営のため、メッセージングアプリケーション(Slack)および電子メールでのオンラインの情報交換を行っている。

2) 日本人間工学会第 63 回大会における企画セッションの開催

PIE 研究部会との共催で、企画セッションを開催した。

日時:2022 年 7 月 31 日 13:00~14:30

場所:尾道市役所本庁舎・しまなみ交流館(広島県尾道市)

参加者:約 35 名

テーマ:脳波ビッグデータ収集による Well-Being 確立に向けての課題

講演者:町澤 まろ先生(広島大学 脳・こころ・感性科学研究センター 特任准教授)

3) 第 2 回談話会の開催

リアルとオンラインの店舗について、その差異を検討・討議した。

日時:2022 年 11 月 09 日(水) 17:30 - 19:00

開催方法:オンライン開催(Zoom)

参加者:17 名

講演者 1:酒井 桂氏(ヤフー株式会社 事業推進統括室 事業管理本部 横断分析部)

テーマ:誰もが使えるオンラインショッピングを目指して

講演者 2:三坂 昇司氏(公益財団法人 流通経済研究所)

テーマ:食品スーパー買物客の視線を追う!~VR を利用した視線データの活用法とは~

(3)成果

- 1)ビッグデータ活用ノウハウ集の作成・公開(昨年度より継続中)

幹事会向けとしていた Slack「JES-BigData」を、一部会員向けに公開した。その中でビッグデータ活用ノウハウ集

を開示しており、現在は以下の5つのチャンネル構成としている。この中で調査研究手法なども議論していく。

また、「WG5: 事例と課題と気づき」は、部会主催の講演会後の感想や議論も行えるスペースとしている。

WG1: ビッグデータ活用ノウハウ集

WG2: データの見える化

WG3: センサ・デバイスの活用

WG4: 実験室実験とフィールドの融合

WG5: 事例と課題と気づき

参加者: 12名(+1)

※Slackの運用にコストがかかるため、今後、別の形態の情報集約方法を検討する。

5-8.PIE 研究部会

{部会長:大須賀 恵美子}

(1)活動目的

COVID-19 拡大の影響により在宅ワークやリモート会議が増えて対面の機会が少なくなり、非対面でのコミュニケーションや心身の健康維持への関心が高まっている。加えてウェアラブルデバイスによる日々の生体計測が容易になり、生理計測を用いた心身の客観的評価に対する社会的ニーズが高まり、一気に需要が増した。この流れを受け、生体計測分野における重要なポジションの確立と社会貢献を目指して国内外での活動を継続する。内容は、これまでと同様に、従来の適切な生理心理計測の手法および人間工学分野に適用する際の方法論について議論するとともに、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を継続して行う。さらに、実験室実験からフィールド計測への転換期を迎えるにあたり、他の研究部会や企業とも連携して、山積する課題の解決に向けて前向きに取り組み、啓発活動を行う。

(2)方法・手段

日本人間工学会大会や関係学会において企画セッション・講演会・ワークショップを開催する。

企画セッションや講演会については、開催報告書として人間工学会誌への投稿を行う。

部会メーリングリスト、Web サイトを通じて部会員への情報配信を円滑に行い充実させる。

(3)成果

- 1) 日本人間工学会関西支部春季講演会(2023.3.18)において、関西支部と共催で講演会を行った。日常生活・産業場面でも利用できるウェアラブルデバイス開発について、田中雄次郎氏(NTT 先端集積デバイス研究所、バイオメディカル情報科学研究センター)と古田雅史氏(株式会社島津製作所 基盤技術研究所、脳五感ユニット)からご講演いただいた。現地ならびにオンラインで合計 50 名の参加者があり、活発な意見交換を行った。[学術集会開催報告:人間工学 59(2)掲載予定(関西支部からの報告)]
- 2) 日本人間工学会関東支部第 52 回大会(2022.12.3-4)において企画セッション「心拍変動指標を用いたストレス評価の妥当性について ~LF/HF はストレス指標と言えるのか?~」を行った。心拍変動 LF、HF の変化様式を生理学的メカニズムとともに説明し、安直に LF/HF をストレス指標とすることの危うさを指摘するとともに、正しい解釈のもとで、日常・産業現場での有用な活用方法を議論した。現地とオンラインで 40 名以上の参加者があった。[学術集会開催報告:人間工学 59(1)p.37-38]
- 3) 第 63 回全国大会(2022.7.30-31)において、ビッグデータ人間工学研究部会と共催で、講演と議論を行うハイブリッドセッションを企画した(講演者:広島大学脳・こころ・感性科学研究センター 町澤まる先生、タイトル:脳波ビッグデータ収集による Well-Being 確立に向けての課題)。感染症急増の影響もあり、現地での参加者は約 30 名であったが、講演者からはコンソーシアムなど、今後の協力体制の提案をいただいた。[学術集会参加報告:人間工学 58(5)p.237-238]
- 4) 第 61 回日本生体医工学会大会(2022.6.28-30、新潟)において、シンポジウム「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題~いつでもどこでもあなただけをめざして~」を企画し、話題提供の後にウェアラブル生体計測の活用方法や課題についてディスカッションを行った。現地会場からは 100 名以上、オンラインで約 40 名と、大変多くの参加があった。[学術集会開催報告:人間工学 58(4)p.195-198]

5) 啓発活動の成果として、新たに38名の部会員数が入会し、前年度より150%増となった。

参考:2023年3月31日現在 部会員数104名(メール不通による退会4名を含む、日本人間工学会非会員62名)

5-9.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

(1)2022年度研究部会テーマ

- 1) 科学コミュニケーションの捉え方や、期待される役割についてのコンセンサスの形成
- 2) 科学コミュニケーションの共通理解に向けた部会企画の開催

(2)活動内容(手段・方法)

1)部会幹事によるミーティングの開催

9/14(水)の部会(オンライン開催)では、科学コミュニケーション部会で議論した人間工学における科学コミュニケーションの目的や意義、範囲、枠組、領域マップ、位置づけを示す部会総説論文の構成を議論し、執筆者の検討と役割分担を行った。その後は、論文執筆者が論文作成に着手した。

2) 国際シンポジウムにおける部会活動報告

2021年11月に韓国人間工学会国際シンポジウム(The Ergonomics Society of Korea International Symposium)で報告した科学コミュニケーション部会の設立報告と日本の科学コミュニケーション活動の良好事例を韓国人間工学会が発行するIndustrial Engineering & Management Systemsに投稿し、2022年12月に原著論文として公開された。

(3) 成果と展望

- 1) 科学コミュニケーション部会の特別企画である総説論文の構成や役割分担を決めて論文執筆に着手したことは成果といえる。
- 2) 科学コミュニケーション部会の活動をアクティブにするため活動の頻度を高めると同時に、活動の幅を広げていくため部会員の増員や連携をはかっていきたい。

5-10.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

(1)活動目的とテーマ

人と衣服と環境の関連に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の研究者の拡大、育成をはかることを目的とする。2012年度よりは「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を継続している。具体的には、衣服のサプライチェーンの側面より、環境に配慮しかつおしゃれな着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、SDGs達成への貢献を視野に入れた研究活動、啓蒙活動に努めている。

(2)活動内容

1) 研究例会

衣服の側面より持続可能な社会について考えるための話題提供と知識の啓蒙を目的に、一般公開の例会としてオンライン講演会を2回企画し実施した。

第1回例会

- ・開催日:2022年12月10日(土)16:00~17:30 zoomによる開催
- ・講演者:(株)アートダイナミクス代表取締役社長/日本エシカル推進協議会会長 生駒 芳子氏
- ・演題: エシカル・ファッションが未来の扉を開く~人にも地球にも犠牲を生まない美しさとは?~
- ・参加者:衣服人間工学部会部会員と一般 約40名
- ・概要: 日本を代表するファッションジャーナリストの一人として、ファッション、アート、社会貢献などに幅広く活躍されている生駒氏をお迎えして講演会をおこなった。生駒氏が提案されているbeautiful investment「自分が美しくなるだけでなく、社会や地球も美しくする新しい消費のあり方、新しいショッピングの形」についての考え方のお話に加え、企業・団体により現在とりまれている店舗展開や商品の紹介も行われた。参加者より消費者が自分ごととしてエシカルショッピングを考えるための契機となる内容であったとの声が多く寄せられた。

第2回例会

- ・開催日:2023年2月25日(土)16:00~17:30 zoomによる開催
- ・講演者:(株)桑原 技術部 後川 欣英氏
- ・演題:衣料品が消費者に届くまで ~繊維製品の検品業務と修整
- ・参加者:衣服人間工学部会部会員と一般 約40名
- ・概要: アパレル製品の98%が輸入品という現状で品質の整わない衣服も多く、日本に入った製品が店頭に並ぶ前に行われている繊維製品の検品業務と修整について、職人による伝統の修整技術と先進の科学技術を駆使し、衣料・雑貨の検品と修整に関する幅広い業務を展開している企業の技術者より実例を交えながらお話していただいた。一般にはあまり知られていない品質管理の実情についてのご講演であり、アンケートによせられた質問への回答もしていただいた。

2) 役員会

Zoomによる役員会を3回開催した。その他例会の打ち合わせなどのメール会議を頻繁に行った。

- ・ 第1回役員会:2022年6月11日(土)
- ・ 第2回役員会:2022年12月10日(土)
- ・ 第3回役員会:2023年2月25日(土)

3) その他

- ・ 人間工学誌6月号に衣服人間工学部会例会の活動報告が掲載された。
- ・ 6月に開催された2022年度日本人間工学会主催イベント「未来の人間工学、人間生活を考える」に参加し、部会長が「衣服部会として未来の人間工学を考える」のテーマで報告を行った。
- ・ 衣服人間工学部会のこれまでの活動を踏まえ、部会長がSDGs検討委員会に参画し、7月に開催された日本人間工学会第63回大会で開催されたシンポジウム「持続可能な人間工学目標2040(SEGs2040):SDGs時代に求められる人間工学未来アクション・ビジョン」での報告を行った。
- ・ 12月発刊のニューズレターに衣服人間工学部会の紹介記事が掲載された。

5-11. 医療労働関連 MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

(1) 活動目的とテーマ

多くの医療従事者が痛み=筋骨格系障害(MSDs)を我慢しながら働いている現状がある。本研究部会は、「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」ことをパーパスに掲げ設立された。

ステークホルダ関与、システムズアプローチ、バックキャスト等、IEAの改訂コア・コンピテンシーを意識し、医療従事者、学会員、企業の方々と活動を開始している。

(2)手段・方法

- 1) 医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発
- 2) 医療労働関連 MSDs に関する教育機会の提供(研究会の開催)
- 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携
- 4) 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信
- 5) その他、本研究会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

(3)成果

2022年10月29日にJES 東海支部大会で研究部会の紹介を行い、医療労働に関する話題提供と議論を目的とした一般公開の例会を「医療MSDs 懇話会」の名称とし、「第1回医療MSDs 懇話会」を下記の通り実施した。いずれもMSDsに関わる社会問題に一貫したコンセプトで取り組み、ビジネス展開している事例も紹介され、参加者が自身の今後の具体的な行動についても考える契機となった。

1) JES 東海支部大会

- ・開催日:2022年10月29日(土)14:25~14:55 朝日大学
- ・講演者:事務局 常見麻芙、世話人 堀 寧、副部会長 斎藤 真
- ・演題: 実践報告 医療労働関連MSDs研究部会
- ・参加者:JES 東海支部大会参加者 約40名
- ・概要: 医療労働について、内視鏡医の現状と課題について情報共有した後に、部会設立の背景や目的・活動概要について説明した。

2) 第1回 医療MSDs 懇話会

- ・開催日:2023年1月19日(木)17:00~18:30 zoomによる開催
- ・座長 堀 寧
- ・趣旨説明 松崎一平
- ・話題提供 自治医科大学 川平 洋
- ・演題: アシストスーツ アルケリスの開発
- ・閉会挨拶:斎藤 真
- ・参加者:本研究部会員と一般 52名
- ・概要: 本研究部会長松崎より医療労働関連MSDs研究部会設立と、医療MSDs懇話会の趣旨説明を行い、本研究部会副部会長川平からアシストスーツの開発に関して話題提供を行った。参加者全員で「すべての医療従事者を守る労働環境をどのように社会実装するか?」をテーマに、活発なディスカッションが行われた。詳細は日本人間工学誌 vol. 59、No. 1、p41-42の学術集会開催報告に掲載。

3) 世話人会

世話人会は本研究部会発起人で構成した。

松崎一平(山下病院)、鈴木浩之(富士フィルムヘルスケア)、榎原 毅(産業医科大学)、下村義弘(千葉大学)、川平 洋(自治医科大学)、堀 寧(名古屋市立大学)、常見麻芙(山下病院)、斎藤真(三重看護大学)、鈴木一弥(労働安全衛生研究所)、浅田晴之(オカムラ)

オンライン(Zoom)による世話人会議を4回開催した。その他、打ち合わせなどのメール会議を頻繁に行った。

- ・キックオフミーティング:2022年7月13日(水)16:00-17:10
- ・第1回世話人会議:2022年10月12日(水)16:00-17:00
副部会長3名の選出(鈴木浩之、川平 洋、斎藤 真)
部会パーパスの決定
研究部会HPのレイアウト決定

今後の部会員勧誘方法

一般公開の例会について

- ・ 第2回世話人会議:2022年12月7日(水)17:00-18:00

第1回懇話会について

部会員募集に関して

研究部会 HP に関して

日本超音波医学会提言について

世話人会で使用するビジネスチャットツールに関して

- ・ 第3回世話人会議:2023年2月22日(水)18:00-19:15

第1回懇話会から得られた課題

第2回懇話会および今後のテーマと役割

新たな声かけすべき組織、部会員

HP 内容充実にに関して

第3回以降懇話会の開催日

Teams 有料化への対応策

全国大会(2023/9/7-8)シンポジウム企画

4) 部会員

日本人間工学会会員を問わず、医療従事者、学会員、企業の方々へ幅広く案内をすることで本学会員30名を含む部会員54名(2023年3月末)の組織となっている。世話人会にて密に協議し、懇話会での活発な議論、組織拡充を推進することができた。

(4)問題点・展望

研究部会 HP を作成し、関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携、医療労働関連 MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信を進め社会に啓発するとともに、部会のアウトプットとして、医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発をバックキャスト手法で計画的にすすめていく。

5-12.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1)活動テーマ:

本部会は、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称し発足、現在システム大会部会として31年にわたる活動を行なっている。1993年以降、年一回、例年三月に開催される学術集会(システム大会)であるが、新型コロナウイルス感染拡大状況が不明であったことから、4年連続、Zoomを用いたOnline形式にて実施した。対面に比して規模の縮小は避けられないが、遠方より気軽に参加でき、会費もかからない極めてシンプルな集会は非常に好評であった。事実、二日にわたり開催した大会は、のべ100名を超える参加者を集め、極めて成功裏に終えるができた。さらに本年度も、本大会をきっかけに日本人間工学会の入会希望者を得ることができ、小さいながらも学会への貢献を行えたものと考えている。同大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

(2)部会運営と主な活動内容

○システム大会幹事会

- ・第1回システム大会幹事会

日時:2022年7月2日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:第30回システム大会報告・第31回システム大会開催方法の討議等

・第2回システム大会幹事会

日時:2022年10月22日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時:2023年2月18日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:システム大会プログラム作成および大会開催最終確認

(3)展望:

より開かれた学会を目指し、さらなる他分野の研究者の参加、英文機関紙(Journal of Ergonomic Technology: JET)の発行を推進し、JES発展に向けて積極的展開を目指している。

Ⅲ.2023年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当:中川 千鶴、横井 元治}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、健やかな人間の営みと、物理・組織・社会環境が調和した持続可能な社会システムの構築に寄与することを目指す。
- (2) 第64回大会を下村義弘大会長のもと2023年9月7日(木)~8日(金)に千葉大学けやき会館(西千葉キャンパス:現地参加人数を制限)とオンラインのハイブリッドで開催する。COVID-19の感染拡大状況によっては、完全オンライン形式で開催する可能性もある。
- (3) 2023年定時社員総会を2023年5月27日(土)に慶應義塾大学矢上キャンパス(神奈川県横浜市)およびオンラインにおいて開催し、2022年度事業報告・収支決算、2023年度事業計画・収支予算の審議等を行う。総会後に学会主催イベント「人間工学の現状と将来」および情報交換会を開催する。
- (4) 第65回大会を小林大二大会長のもと2024年6月15日(土)~16日(日) または 22日(土)~23日(日) に公立千歳科学技術大学にて開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) 学会主催の有料セミナーを開催する。
- (7) ホームページ、ニュースレター、LINE等のオンラインに加え、大会や講演会など実地における草の根広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (8) 学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を軌道にのせるため、引き続き実践系論文の投稿推進策の整備と運用を進める。学会誌「人間工学」の第59巻2~6号および第60巻1号の計6冊を発行する。
- (9) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナー等を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。準専門家・アシスタント資格の見直しを行う。
- (10) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、国際誌検討委員会、子どものICT活用委員会、将来構想・普及委員会、PSE委員会、選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会、第64回大会担当および第65回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (11) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。ビッグデータ人間工学研究部会、PIE 研究部会、科学コミュニケーション部会、感性情報処理・官能評価部会、衣服人間工学部会、医療労働関連 MSDs 研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、システム大会部会の計11研究部会で活動を行う。
- (12) IEA(国際人間工学連合)および ACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAからの情報の国内展開、および JES 情報の海外発信、IEA 評議会および ACED への出席準備、IEA アワード申請への協力、IEA および ACED 内の各委員会の協力、JES-ESK ジョイントシンポジウムの企画などを行う。
- (13) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/AHG2を主導するとともに、TC159/SC1、TC159/SC3、TC159/SC4、TC159/SC5関連

の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。インタラクションが成功する要因に関する国際標準について規格提案に資する活動を行う。

- (14) 2023 年度各賞の授与式を行う。また、2024 年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (15) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。「安全工学シンポジウム 2023」を幹事学会として主催し、シンポジウムの運営を行う。
- (16) 日本学術会議、文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (17) 若手会員を支援するため、若手会員の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (18) 参加企業のニーズなどを把握しながら、人間工学活動の現状について情報共有し、また気軽に参加できるイベントなどを企画～実行することで、参加企業の取組み活性化を図る。
- (19) 日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7期で検討を進めた方向性のブラッシュアップおよび運用計画を立案する。
- (20) 子どもがICT機器を活用する上での人間工学課題を検討し、学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを、引き続き検討する。
- (21) AI、メタバースなど技術環境の変化、製品だけでなくサービスと人間の関わりが重要視される産業変化に応じた人間工学の将来的な役割を検討し、あるべき姿・構想を取りまとめ、学会や行政に向けて情報発信する。
- (22) IEA改訂「Core Competencies in Human Factors and Ergonomics」の日本語版をIEA Pressから出版する。IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながらJESおよびBCPE-J会員のスキルアップについて検討する。
- (23) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長:青木 宏文、副委員長:松田 文子}

- (1)理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内、社会発信等を、ホームページに加えて、新たに LINE にて情報発信する。また、必要に応じて特設ページの運用も行う。
- (2)グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、掲載事例を増加させるために、全国大会だけでなく、支部大会や講演会、CPE の会合などで積極的に呼び込む。
- (3)「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の更新、拡充を図るために、全国・支部大会や講演会、CPE の会合などの機会を活用する。
- (4)サステナビリティを考えこれまでの活動を精査しつつ、人間工学の体系化・教育・普及促進に向けて関連する新領域も含めた広報を行う。

2-2. 編集委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志}

- (1)学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う(紙媒体およびJ-Stage掲載)。
- (2)学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を軌道にのせるために、「理論」と「実践」の両輪を扱うジャーナルとして特に「実践」系の論文の投稿促進策を展開する。
- (3)投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備など、編集委員会業務の推進にあたり、各種委員会との協力・連携をはかる。
- (4)編集委員会を原則年3回、査読委員会を原則年2回開催する。
- (5)学会誌の新投稿区分、新査読方針・査読基準・執筆要領チェックリスト、査読者表彰制度、査読プロセスの短縮化、査読委員会制度など新たな制度を積極的に活用し、人間工学領域の発展を目指した投稿促進と新しい課題の共有を行い、学会誌を通じた学会員との対話の場を提供する。
- (6)表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)等を行う。
- (7)学会誌の発行形態に関し、引き続き国際誌検討委員会との協働による検討を行う。
- (8)学術データベースMEDLINE(Pubmed)への学会誌登録を検討する。
- (9)その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎、副委員長:榎原 毅}

- (1) IEA 評議会(10/18-19)への出席
- (2) ACED 評議会(12/13)への出席
 - (1)(2)については国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行
- (3)日韓共同シンポジウムの開催(全国大会と併催予定)
- (4)国際協力活動およびその他
 - ・IEA アワード申請への協力

- ・IEA 内の各委員会への協力
- ・ACED 内の各委員会への協力
- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への国際学会参加報告の執筆
- ・国際誌検討委員会への協力
- ・そのほか、JES 活動に関する海外への情報発信、国際協力委員会ウェブサイトの更新・広報など

2-4.ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋、副委員長:横井 孝志}

ISO/TC159(人間工学)分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1)会議:全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2)日本主導で審議が予定されている項目

・AHG2(サービスの人間工学)

「経済産業省委託事業」の成果を用いた新規提案をISO/TC159に提出する予定

・WG2(高齢者・障害者の人間工学)

・ISO/TR 22411-2 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)

・SC5(物理環境の人間工学)

・ISO/CD 24505-2 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations — Part 2: For people with defective colour vision and people with low vision

・ISO/DIS 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3)国際会議予定

・TC159/SC1 関連会議、TC159/SC3 関連会議、TC159/SC4 関連会議、TC159/SC5 関連会議ほか

(4)経済産業省委託事業

令和5年度産業標準化推進事業(戦略的国際標準化加速事業:産業基盤分野に係る国際標準開発活動/テーマ名:インタラクションを成功させるための要件とプロセスに関する国際標準化)に取り組む。

2-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治、副委員長:鴻巣 務}

(1)表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。

(2)功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ10%査読者賞、標準化貢献賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。

(3)大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い、受賞者の所属する支部大会において授与する。

(4)表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。

(5)本学会以外のIEA等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6.安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁、副委員長:狩川 大輔}

- (1) 狩川(委員長、東北大学)、藤野(副委員長、福井県立大学)、その他数名の委員を委嘱して活動する予定である。
- (2) 日本学術会議主催「安全工学シンポジウム 2023」を幹事学会として主催し、シンポジウムの運営を行う。その中で、特別講演、連携シンポジウム、学会企画セッションを企画・実施する。
- (3) 他の学協会と連携して、安全に関わる研究・実践活動に関する交流・情報交換の場をつくる。
 - (3-1) 産業・組織心理学会部門別研究会を協賛し、研究会への参加を呼びかける。
 - (3-2) 「安全・安心のための安全管理と社会環境ワークショップ」を日本品質学会等と日本原子力学会ヒューマン・マシン・システム研究部会ほかとともに主催する。
- (4) メルマガを通して安全に関わるヒューマンファクターズの情報発信する。
- (5) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行う。

2-7.学術担当

{担当:青木 洋貴、能登 裕子、久保 博子}

日本学術会議、学術政策等の動向をウォッチするとともに、関連する他学会等との連携のための窓口として活動を継続して行う。活動のさらなる展開を可能とすべく、学術委員会の設立およびそこでのジョブ・ディスクリプションを検討する。

2-8.人間工学専門家認定機構

{機構長:八木 佳子、副機構長:井出 有紀子}

- (1) 資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・資格認定試験(A 方式試験)を年2回、東京と大阪会場で実施する。
 - 2023年9月2日(土) 東京開催
 - 2024年2月17日(土) 大阪開催
 - ・準専門家・人間工学アシスタント審査を年4回程度実施する。
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。
 - 講演会
 - 日時 2023年4月14日(金) 15:00~16:40 現地とオンラインのハイブリッド開催
 - 下記2名の認定人間工学専門家・準専門家によるご講演
 - 講演1:山下 紗恵子(株式会社マーナ)「人間工学とデザインのバランス」
 - 講演2:松崎 一平(医療法人山下病院)「人間工学に基づいた医療従事者の働き方改革と機器開発支援」
 - 総会 日時:2023年4月14日(金) 17:00~17:45 現地とオンラインのハイブリッド開催
 - 幹事会(2~3回開催予定)
- (3) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をする。
- (4) JES内外にBCPE-Jの資格制度及び活動紹介を行うため、全国大会等で発表及びPRする。

- (5)機構ホームページ、会報、人材 DB(ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6)CPE セミナー、CPE サロン(交流会)等のイベントを充実させる。
- (7)専門家の活躍の場を作るための ISO 提案プロジェクトに取り組む。
- (8)受験ガイドブック等を英語に翻訳し公開するなど、英語による受験への対応体制を整える。
- (9)「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞)の審査に積極的に協力する。
- (10)ビジョン実現に向けた検討と認定制度の再検討を行う。
- (11)時代の変化と技術の進歩に対応するため、受験ガイドブックの改定を行う。

[臨時委員会・担当]

2-9.若手支援委員会

{委員長:神田 幸治、副委員長:境 薫、石橋 圭太}

- (1) 若手会員の研究やキャリア形成を支援するために、大学院進学後の進路や就職に関するセミナーや座談会を開催する。
- (2) 学生や若手が学会活動に継続的に参加できるような仕組みを検討する。
- (3) 他委員会、支部大会と連携した支援企画を検討する。

2-10. 企業活動推進委員会

{委員長:佃 五月、副委員長:横山 詔常}

前年度の活動内容を継承し、参加企業のニーズなどを把握しながら、人間工学活動の現状(成功事例、課題など)について情報共有し、また気軽に参加できるイベントなどを企画~実行することで、参加企業の取組み活性化を図る。

(1)アクションプラン

- ・企業での人間工学活動の現状や課題など(前年度の調査結果)について詳細分析する。
- ・上記の分析結果を基に、委員会での意見交換などを通じて、取組み内容の方向性を決める。
- ・企業内活動を進めていくためのヒントや気づきが得られるような、イベント/セミナーなどを企画~実行する。

(2)活動成果の顕在化

- ・学会のホームページ、大会などを通じて情報発信する。
- ・他の委員会などとの連携を図り、活動内容を幅広くアピールする。

2-11.国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志、下村 義弘}

学会の公式和文誌「人間工学」は日本の重要誌500誌のひとつとして選定され、当時のJournal @rchive事業で全電子アーカイブ化がなされるなど、和文誌としては国内有数の歴史を持つジャーナルのひとつである。一方、学術成果の国際発信基盤の整備という面においては、周辺研究分野に比べ遅れている。日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7期で検討を進めた方向性のブラッシュアップおよび運用計画を立案する。学会誌発行60巻(周年)の節目でもある2024年中の運用開始を目指す。

- (1) 特色ある公式英文誌の方向性のブラッシュアップ:①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)、③創刊時にオンラインジャーナルへ移行、④IEA Endorsement Journal化、の4つの方向性のブラッシュアップを行う。また、ジャーナル名称についても引き続き検討を行う。
- (2) 具体的な運用計画の立案:発刊予定の国際誌が対象とする範囲・特色や投稿規程、各種プラットフォーム(出版社、投稿・査読システム、査読方針、掲載料など)ならびに組織運用体制などの制度設計
- (3) 国際誌の継続発行(持続可能性)に関する方策の検討(論文投稿者のボトムアップ・育成方策を含む)
- (4) 人間工学研究知見の社会還元を促進させるトランスレーショナル・ジャーナルに必要な仕掛けの検討(国際誌のアウトリーチ戦略を含む)
- (5) その他、国際誌の発行・運営に必要な諸活動の実施

2-12.子どものICT活用委員会

{委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や電子黒板などのICT機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもがICT機器を活用する上での人間工学課題を検討し、学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを、引き続き検討する。
- (2) 学会内及び他の研究会や会議などの機会を活用して議論を深め、子どものICT機器利用の在り方を検討する。

2-13.将来構想・普及委員会

{委員長:持丸 正明、副委員長:青木 宏文、榎原 毅}

AI、メタバースなど技術環境の変化、製品だけでなくサービスと人間の関わりが重要視される産業変化に応じた人間工学の将来的な役割を検討し、あるべき姿・構想を取りまとめ、学会や行政に向けて情報発信する。

2-14.PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇、副委員長 八木 佳子}

IEA改訂「Core Competencies in Human Factors and Ergonomics」の日本語版をIEA Pressから出版する。IEA PSE(Professional Standard and Education)委員会と連携しながらJESおよびBCPE-J会員のスキルアップについて検討する。

2-15.選挙管理委員会

{委員長: 松田 文子}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-16.役員候補者推薦委員会

{委員長: 吉武 良治}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する役員選挙に関わる次期役員候補者を検討し、推薦する。

2-17.第64回大会担当

{担当: 下村 義弘}

【開催日】2023年9月7日(木)～8日(金)

【大会会場】千葉大学けやき会館(西千葉キャンパス)

現地参加人数を制限のうえハイブリッドで開催を行う。COVID-19の感染拡大状況によっては、完全オンライン形式で開催する可能性もある。

【懇親会会場】千葉大学けやき会館内レセプションホール

現地参加人数を制限のうえハイブリッドで開催を行う。COVID-19の感染拡大状況によっては、懇親会に替えて、懇親会土産の事前発送とオンライン座談会等とする可能性もある。

【内容】特別講演(筑波大学・落合陽一先生、公益財団法人Well-being for Planet Earth・石川善樹先生)、事務局企画シンポジウム(株式会社セントラルユニ・辻 麻友先生)、ステージでの一般講演、ハイブリッドのポスターセッション、企画募集シンポジウム等

【各種締切】演題登録:2023年5月8日(月)、抄録集用の原稿提出:2023年6月19日(月)、参加登録はサイト上で当日まで可能、ただし現地参加枠は一定数になり次第受付終了。

2-18.第65回大会

{担当: 小林 大二}

【開催日】2024年6月15日(土)～16日(日) または 22日(土)～23日(日) (現在調整中)

【大会会場】公立千歳科学技術大学本部棟(予定)

対面開催を予定

【懇親会会場】麒麟ビヤレストラン ハウベ(予定)

対面開催を予定

【内容】特別講演、一般講演、シンポジウム等

3.支部活動

3-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

(1) 支部役員会

日時:2023年5月下旬(予定)

場所:Web開催(予定)

議題:

- ・2022年度北海道支部事業報告、2022年度決算報告
- ・2023年度北海道支部事業計画、2023年度北海道支部予算執行計画
- ・2023年度北海道支部大会及び総会、2023年度北海道支部大会及び総会の実施計画
- ・全国大会の実施計画
- ・その他

(2) 2023年度支部総会および支部大会

日時:2023年11月(予定)

場所:小樽商科大学またはWeb会議(予定)

支部総会議題:

- ・2022年度北海道支部事業報告、2022年度決算報告
- ・2023年度北海道支部事業計画、2023年度北海道支部予算執行計画
- ・2023年度北海道支部大会及び総会の予定
- ・全国大会の実施計画
- ・その他

3-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

(1) 支部役員会

年3回の開催を予定(支部研究会時に開催)

他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1)日時:2023年5月上旬開催(予定)

2)場所:電子メールにて開催

3)議事:2022年度事業報告、2022年度決算報告
2023年度事業計画案、2023年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回の開催(対面とオンラインのハイブリット)を予定。これまで山形市と仙台市を中心に行ってきた研究会を、支部内の他の地域での開催を検討し活動のより一層の活性化と交流を目指す。

(4) その他

研究会では、研究者と企業人・実務家との意見交換を積極的に行う。

3-3.関東支部

{支部長:三林 洋介}

(1) 第53回関東支部大会・第29回卒業研究発表会

1)開催日:2023年12月2日(土)

- 2) 大会長: 松井岳巳先生 (東京都立大学)
- 3) 開催方法: 対面開催
- (2) 支部委員会、支部総会
 - 1) 開催日: 2023年6月・12月 (予定)
 - 2) 開催方法: メール、Zoomによる遠隔開催を計画中
- (3) 講演会(または見学会)
 - 1) 日時: 2024年3月 (予定)
 - 2) 場所: zoomによる遠隔または対面開催を計画中
- (4) ニュースレターの発行:
メーリングリストにより支部大会総会の案内、講演会の案内等を発行予定。

3-4. 東海支部

{支部長: 斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
開催日時: 2023年5月20日(土) 15:00-15:30 (対面)
- (2) 支部役員会
第1回支部役員会: 2023年5月20日(土) 14:00-15:00 (対面)
年3~4回程度対面で開催、必要に応じてオンラインまたはメール会議を開催予定。
- (3) 日本人間工学会東海支部 2023年研究大会の開催
開催日: 2023年11月11日(土)
開催場所: 椋山女学園大学 (愛知県名古屋市)
大会長: 椋山女学園大学生生活科学部 増田智恵 先生
- (4) 東海支部企画
実務者・初学者のための人間工学測定技法講座、企業見学会等については、新型コロナウイルスの影響を考慮しながら開催する。

3-5. 関西支部

{支部長: 小谷 賢太郎}

- (1) 企画・行事等
 - 1) 2023年度 関西支部 第1回見学会 6月~8月にできれば
 - 2) 2023年度 関西支部 第2回見学会 10月~12月にできれば
 - 3) 2023年度 日本人間工学会関西支部大会
大会長: 荒木 望 先生
開催日: 2023年12月9日(土)
会場: 兵庫県立大学
 - 4) 2023年度 春季講演会(支部総会と併催) 2024年3月下旬
- (2) 会議等
 - 1) 第1回幹事会 2023年6月ごろ
 - 2) 第1回評議員会・役員会合同会議(支部大会と併催) 2023年12月9日
 - 3) 2024~2025年度 支部長・副支部長、評議員選挙 2023年11月~2024年1月
 - 4) 第2回幹事会 2024年2月
 - 5) 第2回評議員会(メール審議) 2024年2月
 - 6) 2023年度 会計監査 2024年3月
 - 7) 第2回評議員会・役員会合同会議 2024年3月(総会前)

- 8) 2023 年度関西支部総会 2024 年 3 月
9) 2023 年度支部大会優秀発表賞 表彰式 2024 年 3 月
※7~9は併催の予定
その他, 必要に応じ, 幹事会および評議員会メール審議を行う

3-6. 中国・四国支部

{支部長: 石原 茂和}

(1) 支部理事会開催

第 1 回: 2023 年 4 月 10 日(月), オンライン開催

1) 報告事項:

- ・2022 年度事業報告
- ・2022年度決算報告
- ・人間工学会理事会報告

2) 審議事項:

- ・ 2023 年 中国四国人間工学会支部大会開催: 広島国際大学に決定,
- ・ 支部共催もしくは後援の提案, ・ 2023 年度事業計画案, ・ 2023 年度予算計画案
- ・ (なお, 全国大会実施準備のため, 全国大会開催前日に上記の定例理事会とは別に実施のための理事ミーティングを開催した)

第 2 回: 2023 年 11 月下旬, オンライン開催 (計画の実行状況, 支部大会のスケジュール等を討議)

第 3 回: 2024 年 3 月下旬, オンライン開催

(2) 支部代議員会開催

2023 年 12 月上旬, 支部大会の時に開催予定

(3) 支部総会開催

2023 年 12 月上旬, 支部大会の時に開催予定

(4) 2023 年度日本人間工学会中国・四国支部大会の開催

2023 年 12 月上旬

開催場所: 広島国際大学黒瀬キャンパスで開催予定

大会長: 石原茂和

(5) 支部講演会開催

年数回実施(予定)

(6) 支部主催・共催行事の実施

随時. 共催として, 他学会の研究会に対して, 互いに参加のプロモーションを行う

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長: 庄司 卓郎}

(1) 活動計画

1) 2023 年度支部代議員会

- ・開催日: 未定(支部大会時に開催予定。必要に応じてオンラインで随時開催)
- ・会 場: 未定

*ハイブリット(オンラインと対面)会議やメール会議での開催も検討

2) 2023 年度支部総会

- ・開催日: 未定(支部大会時に開催予定)

・会 場: 未定

*ハイブリット(オンラインと対面)会議やメール会議での開催も検討

3)第44回支部大会

・開催日:未定 ・会場:未定 ・大会長:未定

4.研究部会活動

4-1.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

<2020.4.1~2025.3.31>

(1)2023 年度研究部会テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) ビッグデータ人間工学ノウハウ集の拡充と活用

(2)活動内容(手段・方法)

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を電子メールおよびメッセージングアプリケーション上で行う。
- 2) ノウハウ集の基盤となるシステムについて、より拡充・活用しやすいよう、再検討していく。
- 3) 日本人間工学会の年次大会にてシンポジウムを企画する。
- 4) 年3回の講演会・談話会等をオンラインにて開催する。学会員外・研究部会員外は参加費の有料化を検討する。
- 5) 人間工学目的以外で収集されている各種・各所のデータ群について、人間工学の視点を提供することで新たな価値の創出を行う。

(3)期待される成果

- 1) これまで、手元にあるものの、使えないと思い見過ごされていたデータについて、新しい視点で人間工学に活用することを提案する。これにより、これまで人間工学に関心の薄かった一般層に人間工学の有用性をアピールする。
- 2) 人間工学の視点でまとめられたビッグデータ活用ノウハウ集のサイトとしてユニークな存在を確立する。

4-2. PIE 研究部会

{部会長:大須賀 美恵子}

<2020.4.1~2025.3.31>

(1)活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部として設立した研究部会である。IEA の TC が発展的に解消された現在においても、日本で独自に PIE の活動を継続している。活動内容の基盤は、従来の生理心理計測手法を人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい(特に低負担の)計測手法・解析手法に関する情報交換と課題の抽出を行うことである。ここ数年で、ヘルステックビジネスが急速に進展し、ウェアラブルデバイスやスマートフォン内蔵カメラを利用した生理計測・身体活動計測が、日常的に実践され、それに基づいたアドバイスが提供される時代となった。これらのデバイスやアプリは、生データを提供せず、計測不備に対する対応やデータの定量化手法についても公開していない場合が多い。また、用いられている指標変化の解釈も実験室内の限定された条件で得られたエビデンスに基づくものもある。これらに対し、正しい知識を提供し課題を明確にすることも部会の重要な役割と位置づける。部会活動は、アカデミアだけでなく、デバイス開発者やエンジニア、データサイエンティスト、ユーザなど多様なメンバーが議論に参画できるような部会運営をめざす。

(2)2023 年度の活動内容(手段・方法)

- 1) 本学会の全国大会、支部大会のいずれかにおいて、部会の企画セッションを行なう。多様な人の参画を得るために、可能な限りハイブリッド開催をめざす。
- 2) 近接領域の他学会の大会などでも部会企画を提案して交流の輪を広げる。具体的には、第 62 回日本生体医工学会大会(2023.5.18-20,名古屋)において、シンポジウム「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題〜いつでもどこでもあなただけをめざして〜(2)」を予定している。
- 3) AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」統括運営グループに日本人間工学会の代表として参加し、リエゾン役を務める。
- 4) コロナ禍で実施できなかった実践を伴うワークショップや講習会などの対面イベントも、内容や方法を模索して実施を目指す。
- 5) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3)期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、社会的に役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。また、社会の関心や需要の高まりに応えるべく、基礎研究から得た知見をフィールドに活用するため、他分野や企業と連携して実践的検討を行なうなど、PIE の裾野を広げる。

4-3.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

<2020.5.8~2025.3.31>

(1)2023 年度研究部会テーマ

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションのコンセンサス促進
- 2) 人間工学の社会実装に向けた科学コミュニケーション企画の推進
- 3) 人間工学の研究成果を効果的に社会発信していくための方策や指針の検討

(2)活動内容(手段・方法)

- 1) 科学コミュニケーション部会の特別企画(総説論文投稿)や学会、シンポジウムなどの機会を利用して人間工学会員における科学コミュニケーションのコンセンサスを促進する。
- 2)「人間工学を社会に役立てるための科学ミーティング」を開催し、人間工学の社会実装に向けたアイデアを学会員と共有する。
- 3) 科学コミュニケーション部会の開催頻度を高め、部会員を増員しながら、活動の幅とアクティビティを高めていく。

(3)期待される成果

- 1) 人間工学会員が科学コミュニケーションを議論する際に必要な共通理解が定着し、他組織(部会、委員会、他学会、等)との連携が深まる。
- 2) 社会的課題解決に向けて人間工学を活用するアイデアが具体化される。
- 3) 人間工学会における科学コミュニケーション活動のアクティビティが高まり、人間工学の社会実装が促される。

4-4.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}

<2023.4.1~2026.3.31>

(1)テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人・熟練者どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびプロの職業人・設計者の育成をはかる。

(2)手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。これに加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やプロの職業人・設計者相互の情報交換や交流をはかるとともに、両者の研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない具体的かつ有益なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3)期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激される機会、学ぶ機会を広範に提供することにより、特に若手研究者の裾野の拡大や関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難や課題を部会会員が相互に共有・議論する機会を提供し、支援することを通して、人間工学の一層の発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。それらの過程で、これまで職人や熟練者の職能・技能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化、見える化し、それらを広く一般に提案し、還元することで、これまでの研究手法や体験、モノづくりに新たな価値（例えば感性価値や経験価値）を付加することを可能とする。

4-5. 衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

<2022.4.1~2027.3.31>

(1) 活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服のサプライチェーンの側面から、着装的あり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、SDGs 達成への貢献を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2) 活動計画(方法・手段)

- 1) 幹事会 Zoomやメールによる幹事会の開催
- 2) 研究例会の開催 Webと対面で2回程度開催予定
 - ・8月 web 講演会および web ワークショップ
 - ・2月 工場見学および web 講演会

(3) 期待される成果と展望

講演会、工場見学、ワークショップなどを行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また、地球環境問題をめぐる消費者の意識の向上に衣生活の立場から貢献できると考えている。今後これまでの活動の成果を冊子やDVDなどにまとめることについても検討したい。

4-6. 医療労働関連MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

<2022.6.1~2027.3.31>

(1) 活動テーマ

パーパス「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」

2023年度は、懇話会を通して様々な医療現場のMSDs 課題の洗い出しを行い、医療従事者、学会員、企業の組織構築を行い、他学会との共催・協賛を通じて議論を進める。パーパス達成の期限を設定し、中期目標、提言書等アウトプットの設定を具体的に進める。

(2) 手段・方法

1) 医療労働関連MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発

懇話会等を通じて、様々な医療従事者(医師、看護師、技師、理学療法士等)のMSDs 課題を抽出する。

Ergonomic Checkpoints 等の先行良好事例を参考とし、提言書、オンデマンド教材、アプリ等の開発を検討するため必要なタスクチームの組織化を検討し、バックキャスト手法で中期計画を策定する。

2) 医療労働関連MSDsに関する教育機会の提供(研究会の開催)

年4回のオンライン会議形式による医療MSDs 懇話会では、引き続き話題提供を呼び水に活発な議論を行う。全国大会や地方大会においては対面形式でMSDs 軽減のための機器の体験会を企画する。

・活動予定

- 4月 第2回医療MSDs懇話会「MSDsを軽減する医療機器ユーザビリティ」
- 5月 世話人会
- 7月 第3回医療MSDs懇話会「筋骨格系障害(MSDs)を深く学ぶ」
- 9月 全国大会 体験型シンポジウム企画

3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携

医療系学会、産業衛生系学会などを含む関連学会との共同企画、連携を進める。他研究部会との共同企画も計画する。

4) 医療労働関連MSDs軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信

グッドプラクティスデータベース、研究部会HPを活用して医療MSDs軽減に繋がる製品の収集と発信に努める。

5) その他、本研究会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

(3)期待される成果

MSDsに関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学手法を学ぶ機会を広範に提供することにより、若手研究者の勧誘、関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。本研究部会で知識を得た医療従事者が各医療系学会で人間工学を啓発するとともに、医工連携の推進によりMSDs軽減に繋がる人間工学に基づいた医療関連機器の開発が進み、ひいては人間工学の発展および学会員の増員に寄与することが期待できる。

4-7.航空人間工学部会

{部会長:竹内 由則}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)内容

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事件事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2)方法・手段

1) 例会(公開講座)の開催

日時:2023年6月16日(金)13:00-17:00(予定)

場所:野村不動産天王洲ビル2階会議室(ウイングホール)

講演:以下のテーマに関連する4演題程度を予定

- 空港制限区域内におけるレベル4相当自動運転の導入に向けた取組
- MCC (Multi Crew Co-operation) 訓練
- 航空人間工学研究活動紹介

2) 施設見学会の実施

ヒューマンファクタや各企業による安全への取り組みなどを介し、学び・知見を得ることを目的に、施設見学会を計画・実施する。可能な限り、一般公開していない施設・場所を対象とする。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。対面式・オンライン形式の両方を活用し、効率化をはかる。

(3)期待される成果

例会(公開講座)及び見学会の活動を通じ、航空安全の推進に関わる官・民・学の関係者が交流する場を当部会が提供する。関係者がお互い情報を共有し、議論を行うことで、航空人間工学や航空安全技術に関する動向等の知見獲得が可能となり、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものと考え。

4-8.アーゴデザイン部会

{部会長:高橋 克実}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)活動テーマ

「ビジョンと社会実装」~ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究~

2023 年度はフューチャーエクスペリエンス(FX)の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。社会環境性とその実現性を踏まえた人間工学研究がより必要となると考え、「ビジョンと社会実装」についての研究と議論をアーゴデザインの視点から実施していくこととする。

(2)手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス(FX)-WG の活動強化

フューチャーエクスペリエンス(FX)-WG の活動を今年度も更に強化していく。部会活動のテーマである「「ビジョンと社会実装」~ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究~」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、ワークショップ、ミーティングを可能な限り実施を行い、その研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2) フューチャーエクスペリエンス(FX)の啓蒙・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス(FX)」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントを開催する。また、Zoom や Miro などのツールによるオンラインセミナー、オンラインワークショップを行い、「ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究」の活動との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。2019 年度より FX 教育 WG を設立し、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3)期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるフューチャーエクスペリエンス(FX)「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型デザイン方法論」(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しい EXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4)活動予定

4 月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)

6 月 見学会

8 月 コンセプト事例発表会、幹事会

9 月 日本人間工学会 第64回全国大会 シンポジウム(FX フォーラム)

1 月 FX フォーラム開催(HCD_net 京都サロン合同)

3 月 2023 年度 合宿研究会、総会、幹事会

4-9.海事人間工学研究部会

{部会長:村井 康二}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2)手段・方法

1)企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。2023年度は支部大会で企画セッションを行う予定である。

2)見学会の開催

2023年度においては、自動・自律化船のシステム評価のために開発された海上技術安全研究所の総合シミュレーションシステムの見学会を企画する予定である。

3)セミナーの企画提案

海事人間工学分野に於いて操縦者の認知リスクやタスクに対して実践的に分析をおこなった結果を用いた解析手法に関するセミナーの企画・提案を行うことで、技術交流を推進する予定である。

4)幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度2回以上の幹事会を開催する。また、コミュニケーションの頻度を増やすため、WEB会議システムも活用する。

(3)期待される効果

企画セッション開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者や技術者との連携を発展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-10.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)テーマ

オフィスワークを中心として、新しい働き方や環境について研究を行ってきた第1期(2018~2022)の5年間では、新型コロナウイルス感染の拡大により、在宅勤務やオンライン会議等、情報通信機器を使った仕事が拡大したため、本研究部会の重点も在宅勤務や学習に役立つ内容としてきた。第2期の今後5年間はポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代、多様性雇用を見据えて、働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、知識の普及を図ることを目的とする。

(2)手段・方法

1)幹事会 メールやZoom, 対面による幹事会を開催する

2)高齢者や女性の雇用対策や多様な働き方を行っている事業所の見学会を実施する

3)セミナーの開催 日本人間工学会人間工学専門家認定機構と共催で働く環境等をテーマにセミナーを開催する

4)第64回大会における企画セッションを実施する

5)テレワークの人間工学ガイドラインの改訂追加する

(3)期待される効果

テレワークやリモート会議の普及などによって、かえって対面の会議やオフィスでの共同作業がポストコロナ時代の働き方として重要視されるようになってきた。また定年延長政策により高齢者の働く環境への対策が必要になるとともに、女性活用による様々な雇用形態が生じてきている。そこでこれらの多様な働き方や働く環境に関する研究を行うとともに、セミナーを開催することによって、人間工学専門家や働く人々に健康と安全を守るための人間工学の知識を伝えることができる。また

第64回大会の企画セッションでこれらの成果を発表することによって、より深い議論ができる。

4-11.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1)本会の目的

人間工学をシステム論的立場から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会は、今年で32年目を迎えた。毎年3月に開催される研究発表会(システム大会、第28回から直近の第31回大会は新型コロナウイルス拡大の為On Lineにて開催)は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者、卒業研究生、修士研究生にとって、日本人間工学会全国大会(毎年6月開催)・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。さらに近年、全国各地から大学関係者、企業研究者の発表も増え、医学から工学、さらには人文科学領域にわたる幅広い分野の研究者が集い、議論できる同大会は盛況である。

(2)活動の内容

第31回システム大会(令和四年度大会、早稲田大学主催)をOn Lineにて開催した。二日にわたり行われた大会には、のべ100名を超える参加者を集め、今回も十分な成功を収めたと考える。新型コロナの状況にも左右されるが、例年に続き、来年度も定期大会を計画しており、同大会を通じて、学生、若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。次期大会(第32回システム大会、主催校未定)開催に向け、年数回、大学教員を中心に幹事会の実施を計画する。

一般社団法人日本人間工学会2023年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	中川 千鶴、横井 元治	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	笠松 慶子、河合 隆史	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	青木 宏文、松田 文子	HPの運用推進、GPDBによる実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	榎原 毅、村木 里志	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷 賢太郎、榎原 毅	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井 孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS規格案作成と普及
表彰委員会	吉武 良治、鴻巣 努	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、狩川 大輔	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	青木 洋貴、能登 裕子、久保 博子	日本学術会議との連携、科研費の細目要望
人間工学専門家認定機構	八木 佳子、井出 有紀子	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDBへの協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	神田 幸治、境 薫、石橋 圭太	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
企業活動推進委員会	佃 五月、横山 詔常	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討
国際誌検討委員会	榎原 毅、村木 里志、下村 義弘	人間工学分野の国際誌の現状を調査し、今後の戦略を検討
子どものICT活用委員会	柴田 隆史、岡田 衛	学校等のICT機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
将来構想・普及委員会	持丸 正明、青木 宏文、榎原 毅	AIの普及等、人間を取り巻く技術環境が急速に変化する中で、人間工学の将来的な役割を検討し、あるべき姿・構想を文書として取りまとめ、社会発信していくことを推進
PSE委員会	鳥居塚 崇、八木 佳子	IEA改訂コアコンピテンシーに基づき、JESとBCPE-Jが連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進
選挙管理委員会	松田 文子	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
役員候補者推薦委員会	吉武 良治	次期役員候補者を検討・推薦
第64回大会担当	下村 義弘	2023年9月7～8日に大会開催
第65回大会担当	小林 大二	2024年6月に大会開催